

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第6762930号
(P6762930)

(45) 発行日 令和2年9月30日(2020.9.30)

(24) 登録日 令和2年9月11日(2020.9.11)

(51) Int.Cl.

F 1

C07D 231/06	(2006.01)	C 07 D 231/06	C S P B
A61K 31/454	(2006.01)	A 61 K 31/454	
C07D 401/12	(2006.01)	C 07 D 401/12	
A61K 31/5377	(2006.01)	A 61 K 31/5377	
A61K 31/415	(2006.01)	A 61 K 31/415	

請求項の数 30 (全 75 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2017-511558 (P2017-511558)
(86) (22) 出願日	平成27年5月8日(2015.5.8)
(65) 公表番号	特表2017-515899 (P2017-515899A)
(43) 公表日	平成29年6月15日(2017.6.15)
(86) 国際出願番号	PCT/US2015/029946
(87) 国際公開番号	W02015/172059
(87) 国際公開日	平成27年11月12日(2015.11.12)
審査請求日	平成30年5月7日(2018.5.7)
(31) 優先権主張番号	61/991,333
(32) 優先日	平成26年5月9日(2014.5.9)
(33) 優先権主張国・地域又は機関	米国(US)

(73) 特許権者	508285606 ザ ユナイテッド ステイツ オブ アメリカ, アズ リプレゼンテッド バイザ セクレタリー, デパートメント オブ ヘルス アンド ヒューマン サービシーズ アメリカ合衆国, メリーランド 20892-7660, ベセスダ, エグゼキュティブ ブールバード 6011, スイート 325, エムエスシー 7660
(74) 代理人	100078282 弁理士 山本 秀策
(74) 代理人	100113413 弁理士 森下 夏樹

最終頁に続く

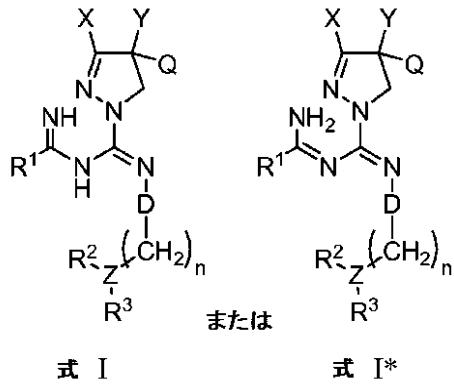
(54) 【発明の名称】カンナビノイド受容体メディエータとしてのピラゾール誘導体およびそれらの使用

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の構造:

【化 4 9】



(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、または必要に応じて置換されているヘテロアリールからそれぞれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

R¹、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置

換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシリ、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニル、アラルキル、必要に応じて置換されているチオールからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒になって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、または必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環を形成し、

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

Dは、-S(O)₂-または-C(O)-であり、

nは0~5である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩。

【請求項2】

R²とR³がZと一緒になって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない、請求項1に記載の化合物。

【請求項3】

R²およびR³が、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキルである、請求項2に記載の化合物。

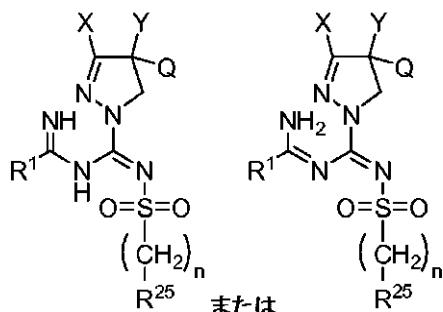
【請求項4】

R²およびR³がそれぞれ同一であり、それぞれ低級アルキルであり、ZがNである、請求項3に記載の化合物。

【請求項5】

以下の構造：

【化50】



式 Ia

式 Ia*

(式中、R²~⁵は、必要に応じて置換されているN-複素環である)

を有する、請求項1に記載の化合物。

【請求項6】

XおよびYがそれぞれ、必要に応じて置換されているアリールである、請求項1から5のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項7】

以下の構造：

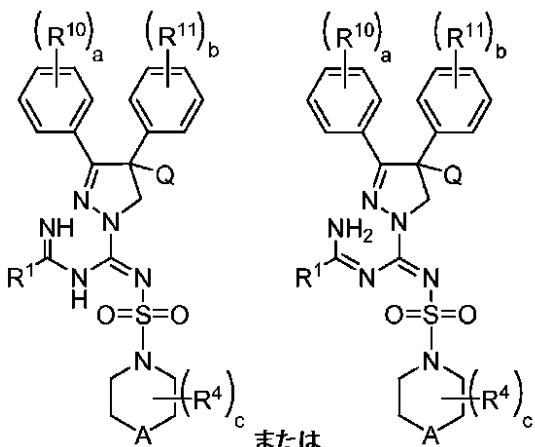
10

20

30

40

【化52】



式 Ic

式 Ic*.

10

を有し、

R⁴、R¹⁰およびR¹¹はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

Aは、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、-CH(COO²⁰)-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-、または-N(O)-であり、R²⁰は、Hまたはアルキルであり、

aおよびbはそれぞれ、0~5であり、

cは0~7である、

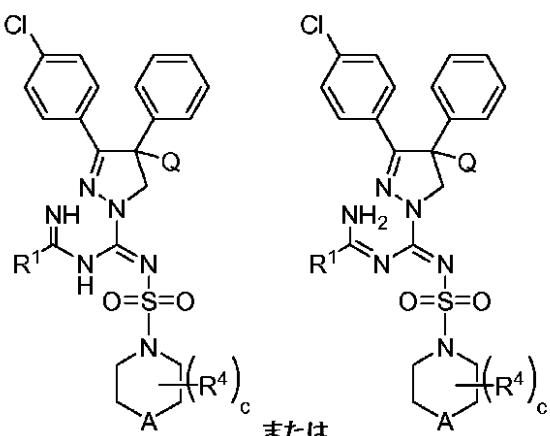
20

請求項5に記載の化合物。

【請求項8】

以下の構造：

【化53】



式 Id

式 Id*.

40

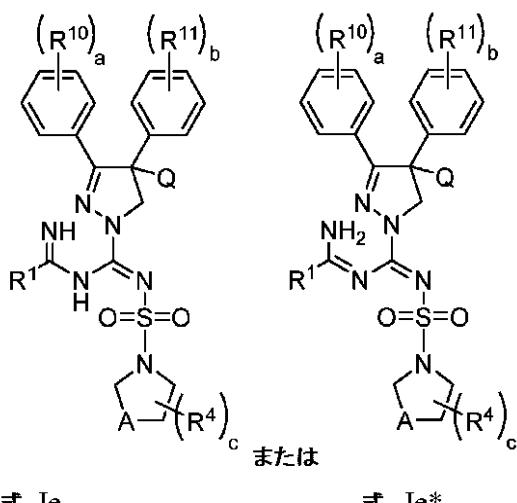
を有する、請求項7に記載の化合物。

50

【請求項 9】

以下の構造：

【化 5 4】



式 Ie

式 Ie*

を有し、

20

R⁴、R¹⁰およびR¹¹はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

Aは、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、-CH(COO²⁰)-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-、または-N(O)-であり、R²⁰は、Hまたはアルキルであり、

aおよびbはそれぞれ、0~5であり、

30

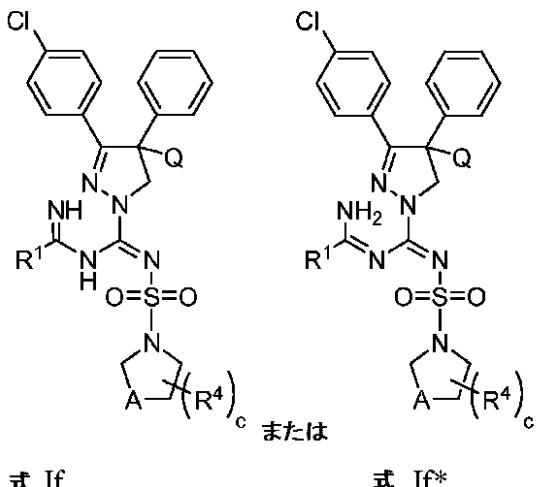
cは0~7である、

請求項5に記載の化合物。

【請求項10】

以下の構造：

【化 5 5】



式 If

式 If*.

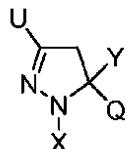
を有する、請求項 9 に記載の化合物。

【請求項 1 1】

以下の構造：

【化 5 6】

20



式 II

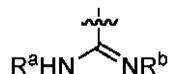
(式中、X および Y は、必要に応じて置換されているアリール、または必要に応じて置換されているヘテロアリールからそれぞれ独立して選択され、

Q は、H、ヒドロキシリル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

U は、

【化 5 7】

30



(式中、R^a は -C(=NH)R¹ であり、R¹ は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、R^b は、置換スルホニルまたは置換カルボニルである)

40

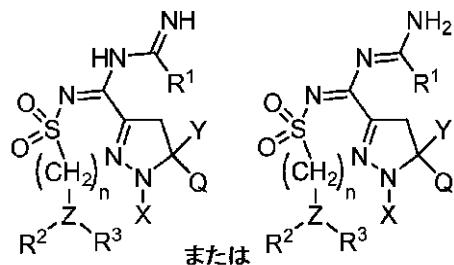
である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩。

【請求項 1 2】

以下の構造：

【化58】



式 IIa

式 IIa*

10

(式中、

XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、または必要に応じて置換されているヘテロアリールからそれぞれ独立して選択され、Qは、H、ヒドロキシリ、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、R¹は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニルからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環、必要に応じて置換されているアリール環、または必要に応じて置換されているヘテロアリール環を形成し、

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

nは0~5である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩。

【請求項13】

R²とR³がZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も、必要に応じて置換されているアリール環も、または必要に応じて置換されているヘテロアリール環も形成しない、請求項12に記載の化合物。

【請求項14】

R²およびR³が、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキル（特に、低級アルキル）である、請求項12に記載の化合物。

【請求項15】

R²およびR³がそれぞれ同一であり、それぞれ低級アルキルであり、ZがNである、請求項14に記載の化合物。

【請求項16】

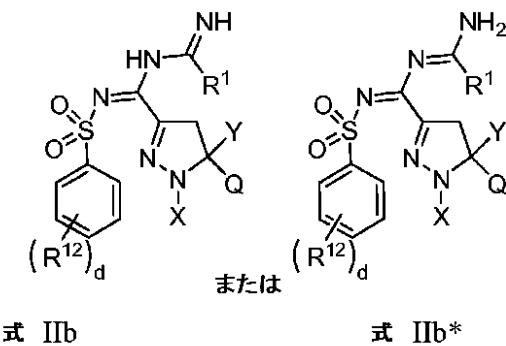
以下の構造：

20

30

40

【化59】



式 IIb

式 IIb*

10

(式中、

 X および Y は、必要に応じて置換されているアリール、または必要に応じて置換されているヘテロアリールからそれぞれ独立して選択され、 Q は、 H 、ヒドロキシル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、 R^1 は、 H 、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、 R^{1-2} はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているヘテロアルキル、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシもしくは必要に応じて置換されているアルキルアミノ、必要に応じて置換されているアリール、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アシリルまたはカルボニルから独立して選択され、 d は 0 ~ 5 である)

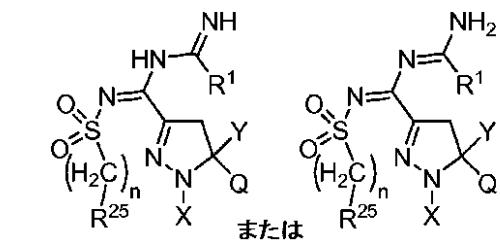
を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩。

【請求項17】

30

以下の構造：

【化60】



式 IIc

式 IIc*

40

(式中、 R^{2-5} は、必要に応じて置換されている N -複素環である)
を有する、請求項12に記載の化合物。

【請求項18】

 R^1 が、必要に応じて置換されているアルキル、アミノカルボニル、または必要に応じて置換されているフェニルである、請求項1から17のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項19】

 Q が H である、請求項1から18のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項20】

50

Aが、-CH₂-、-CF₂-、-O-、または-CH(CF₃)-である、請求項1から19のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項21】

Dが-S(O)₂-である、請求項1に記載の化合物。

【請求項22】

nが0である、請求項1または請求項21に記載の化合物。

【請求項23】

XおよびYがそれぞれ、必要に応じて置換されているフェニルであり、QがHである、請求項1、21または22のいずれか一項に記載の化合物。

【請求項24】

請求項1から10のいずれか一項に記載の化合物および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物を含む、医薬組成物。

10

【請求項25】

治療量の請求項1から10のいずれか一項に記載の化合物、および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物からなる単位剤形を含む、医薬組成物。

【請求項26】

被験体において、肥満、糖尿病、非アルコール性脂肪肝疾患およびアルコール性脂肪肝疾患、肥満の共存症、動脈硬化性心疾患の素因になる脂質異常症、糖尿病性腎症、または痛風を処置するための組成物であって、請求項1から10のいずれか一項に記載の化合物を含み、前記組成物はそれを必要とする前記被験体に投与されることを特徴とする、組成物。

20

【請求項27】

前記被験体において、肥満を処置するための、請求項26に記載の組成物。

【請求項28】

前記被験体において、糖尿病を処置するための、請求項26に記載の組成物。

【請求項29】

被験体において、脂肪組織の沈着を予防するかまたは元に戻すための組成物であって、請求項1から10のいずれか一項に記載の化合物を含み、前記組成物はそれを必要とする前記被験体に投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項30】

30

前記組成物の投与により、脳内最高濃度と血漿中最高濃度との比が0.1未満となる、請求項26から29のいずれか一項に記載の組成物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本出願は、2014年5月9日に出願された米国仮特許出願第61/991,333号の優先権の利益を主張し、この出願は参照によってその全体が本明細書に援用される。

【背景技術】

【0002】

背景

40

内因性カンナビノイドは、大麻の効果を認識して媒介する、同じカンナビノイド受容体であるCB₁およびCB₂に作用する脂質シグナル伝達分子である。CB₁受容体の活性化は、食欲を増加させ、脂質の生合成および貯蔵を増加させ、インスリンおよびレブチンの作用を阻害し、炎症および線維症が促進し、これにより、メタボリックシンドロームと呼ばれる肥満およびその代謝性合併症を処置するためのCB₁受容体遮断薬の開発に至った。プロトタイプ化合物であるリモナバンは、メタボリックシンドロームの処置に有効であることが証明されたが、神経精神医学的な副作用を引き起こし、これにより、市場から撤退することとなり、このクラスの化合物のさらなる治療的開発は停止された。

【発明の概要】

【課題を解決するための手段】

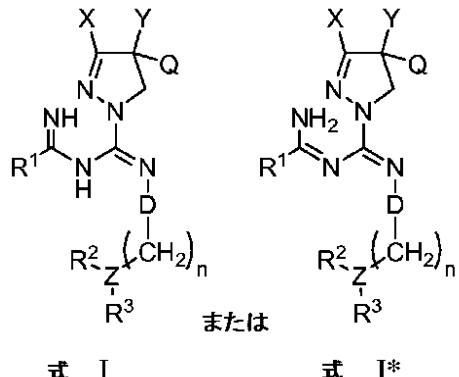
50

【0003】

要旨

一実施形態では、以下の構造：

【化1】



式 I

式 I*

10

(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシリル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

20

R¹、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニル、アラルキル、必要に応じて置換されているチオールからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒になつて、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、または必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環を形成し、

30

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

Dは、-S(O)₂-または-C(O)-であり、

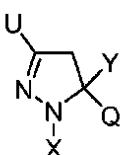
nは0~5である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0004】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化2】



式 II

40

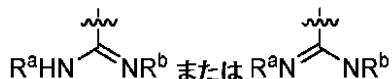
(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシリル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

Uは、

50

【化3】



(式中、R^aは-C(=NH)R¹であり、R¹は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、R^bは、置換スルホニルまたは置換カルボニルである)

である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0005】

さらなる実施形態では、(i) C B₁受容体媒介性骨格および(ii)第2の治療骨格(therapeutic scaffold)を含む化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0006】

さらなる実施形態では、本明細書において開示されている化合物および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物を含む医薬組成物が本明細書において開示されている。

【0007】

治療量の本明細書において開示されている化合物、および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物からなる単位剤形を含む組成物も本明細書において開示されている。

【0008】

さらなる実施形態では、被験体において、肥満、糖尿病、非アルコール性脂肪肝疾患およびアルコール性脂肪肝疾患、または動脈硬化性心疾患もしくは痛風などの肥満の共存症を処置する方法であって、それを必要とする被験体に、治療有効量の本明細書において開示されている化合物を投与するステップを含む方法が、本明細書において開示されている。

【0009】

さらなる実施形態では、被験体において、線維症または肝臓がんを処置する方法であって、それを必要とする被験体に、治療有効量の本明細書において開示されている化合物を投与するステップを含む方法が、本明細書において開示されている。

【0010】

さらなる実施形態では、被験体において、脂肪組織の沈着を予防するかまたは元に戻す方法であって、それを必要とする被験体に、有効量の本明細書において開示されている化合物を投与するステップを含む方法が、本明細書において開示されている。

【0011】

一実施形態において、例えば、以下の項目が提供される。

(項目1)

以下の構造:

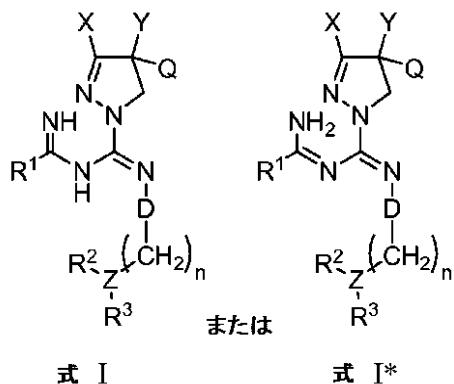
10

20

30

40

【化49】



10

(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシリル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、R¹、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニル、アラルキル、必要に応じて置換されているチオールからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、または必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環を形成し、

20

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

Dは、-S(O)₂-または-C(O)-であり、

30

nは0~5である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステル。

(項目2)

R²とR³がZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない、項目1に記載の化合物。

(項目3)

R²およびR³が、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキルである、項目2に記載の化合物。

(項目4)

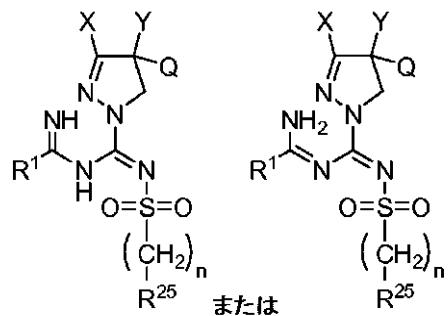
R²およびR³がそれぞれ同一であり、それぞれ低級アルキルであり、ZがNである、項目3に記載の化合物。

40

(項目5)

以下の構造:

【化 5 0】



式 Ia

式 Ia*

10

(式中、R^{2~5}は、必要に応じて置換されているN-複素環である)
を有する、項目1に記載の化合物。

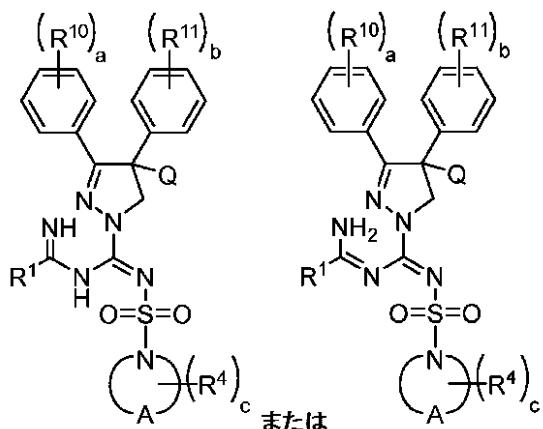
(項目6)

XおよびYがそれぞれ、必要に応じて置換されているアリールである、項目1から5の
いずれか一項に記載の化合物。

(項目7)

以下の構造:

【化 5 1】



式 Ib

式 Ib*

20

30

(式中、R⁴、R^{1~0}およびR^{1~1}はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、
必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、
必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、
必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、
必要に応じて置換されているカルボキシル、アシリル、必要に応じて置換されているアル
ケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、
または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

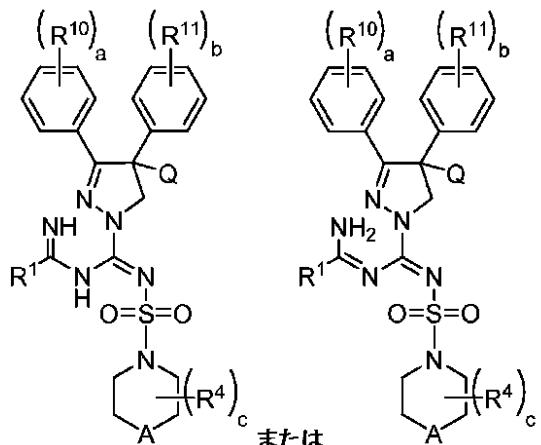
Aは、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、一置換C-ヘテロアルキルもしくは二置換C-ヘテ
ロアルキル、一置換C-アルキルもしくは二置換C-アルキル、一置換C-アリールもし
くは二置換C-アリール、一置換C-シクロアルキルもしくは二置換C-シクロアルキル
、-CH(COO R^{2~0})-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-または-N(O)-であり、R^{2~0}は、Hまたはアルキルであり、

aおよびbはそれぞれ、0~5であり、

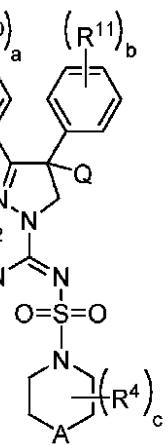
40

50

c は 0 ~ 7 である)
を有する、項目 5 に記載の化合物。
(項目 8)
以下の構造 :
【 化 5 2 】

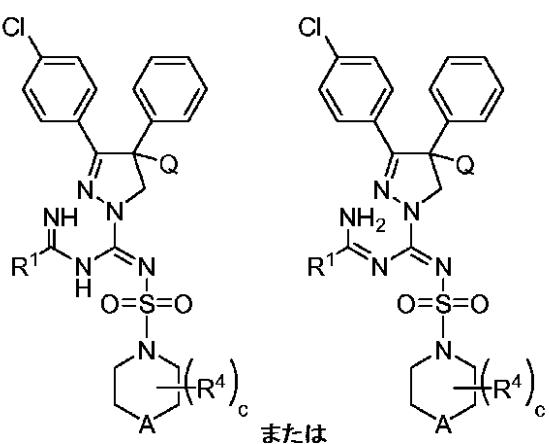


式 Ic

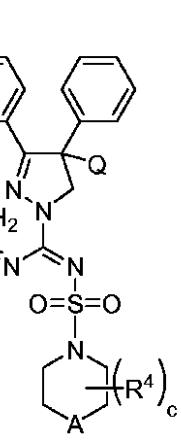


式 Ic*

を有する、項目 7 に記載の化合物。
(項目 9)
以下の構造：
【化 5-3】



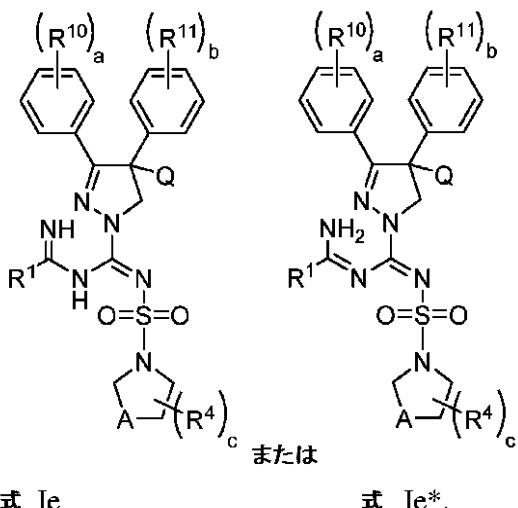
式 Id



式 Id^* .

を有する、項目 8 に記載の化合物。
(項目 10)
以下の構造：

【化 5 4】



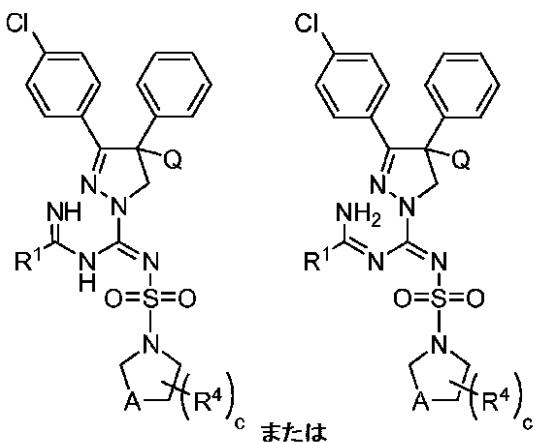
10

式 Ie

式 Ie*.

を有する、項目 7 に記載の化合物。(項目 1 1)以下の構造：

【化 5 5】



20

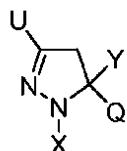
式 If

式 If*.

30

を有する、項目 1 0 に記載の化合物。(項目 1 2)以下の構造：

【化 5 6】



式 II

40

(式中、X および Y は、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞ

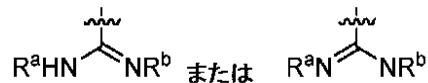
50

れ独立して選択され、

Q は、H、ヒドロキシリ、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

U は、

【化 5 7】



(式中、R^a は - C (= N H) R¹ であり、R¹ は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、R^b は、置換スルホニルまたは置換カルボニルである)

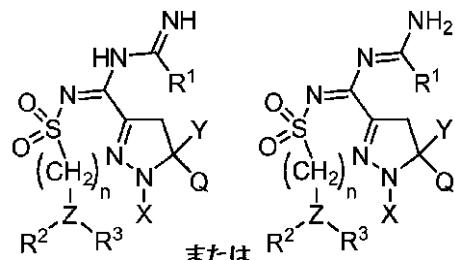
である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステル。

(項目 1 3)

以下の構造 :

【化 5 8】



式 IIa

式 IIa*

(式中、R² および R³ は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニルからそれぞれ独立して選択されるか、または R² と R³ は Z と一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環、必要に応じて置換されているアリール環、または必要に応じて置換されているヘテロアリール環を形成し、

Z は、B、N、- C H - または P であり、

n は 0 ~ 5 である)

を有する、項目 1 2 に記載の化合物。

(項目 1 4)

R² と R³ が Z と一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も、必要に応じて置換されているアリール環も、または必要に応じて置換されているヘテロアリール環も形成しない、項目 1 3 に記載の化合物。

(項目 1 5)

10

20

40

50

R² および R³ が、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキル（特に、低級アルキル）である、項目 1 3 に記載の化合物。

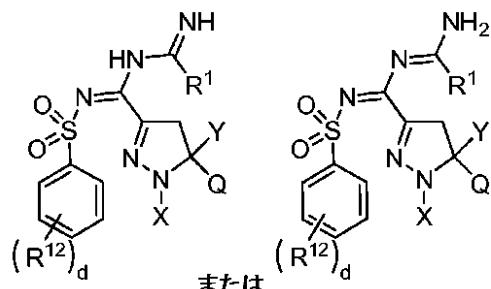
(項目 1 6)

R² および R³ がそれぞれ同一であり、それぞれ低級アルキルであり、Z が N である、項目 1 5 に記載の化合物。

(項目 1 7)

以下の構造：

【化 5 9】



式 IIb

式 IIb*

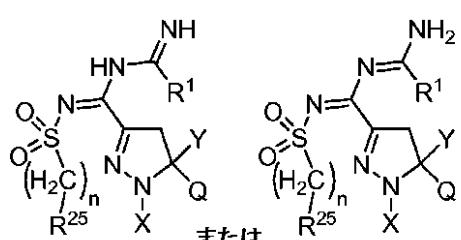
(式中、R¹ ~ 2 はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているヘテロアルキル、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシもしくは必要に応じて置換されているアルキルアミノ、必要に応じて置換されているアリール、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アシリルまたはカルボニルから独立して選択され、d は 0 ~ 5 である)

を有する、項目 1 3 に記載の化合物。

(項目 1 8)

以下の構造：

【化 6 0】



式 IIc

式 IIc*

(式中、R² ~ 5 は、必要に応じて置換されているN - 複素環である)

を有する、項目 1 3 に記載の化合物。

(項目 1 9)

以下の構造：

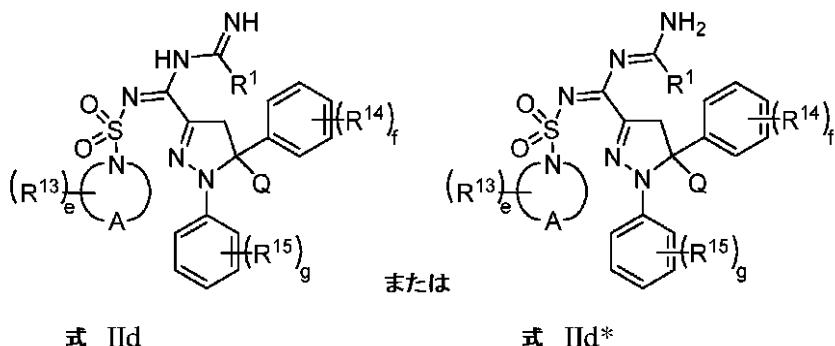
10

20

30

40

【化 6 1】



式 IIId

式 IIId*

10

(式中、R^{1~3}、R^{1~4}およびR^{1~5}はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

Aは、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、一置換C-ヘテロアルキルもしくは二置換C-ヘテロアルキル、一置換C-アルキルもしくは二置換C-アルキル、一置換C-アリールもしくは二置換C-アリール、一置換C-シクロアルキルもしくは二置換C-シクロアルキル、-CH(COO²⁰)-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-または-N(O)-であり、R²⁰は、Hまたはアルキルであり、

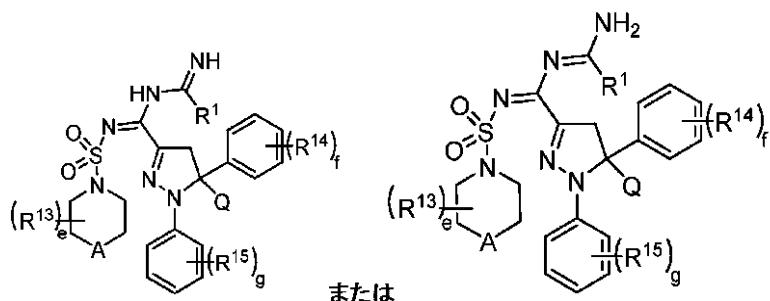
fおよびgはそれぞれ、0~5であり、
gは0~7である)

を有する、項目18に記載の化合物。

(項目20)

以下の構造：

【化 6 2】



式 IIe

式 IIe*.

30

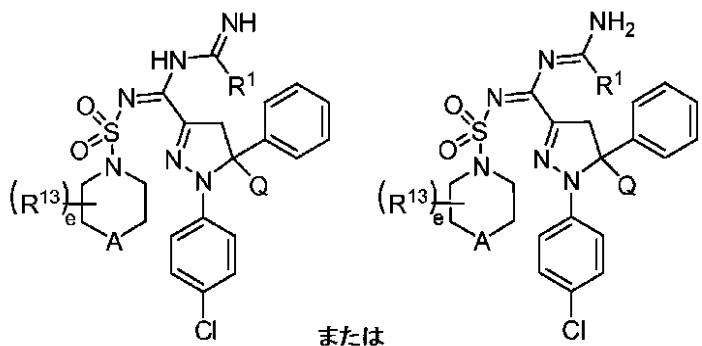
を有する、項目19に記載の化合物。

(項目21)

以下の構造：

40

【化63】



式 IIIf

式 IIIf*.

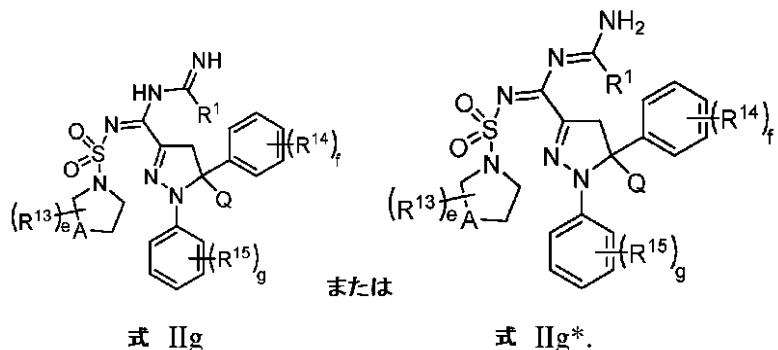
10

を有する、項目20に記載の化合物。

(項目22)

以下の構造：

【化64】



式 IIlg

式 IIlg*.

20

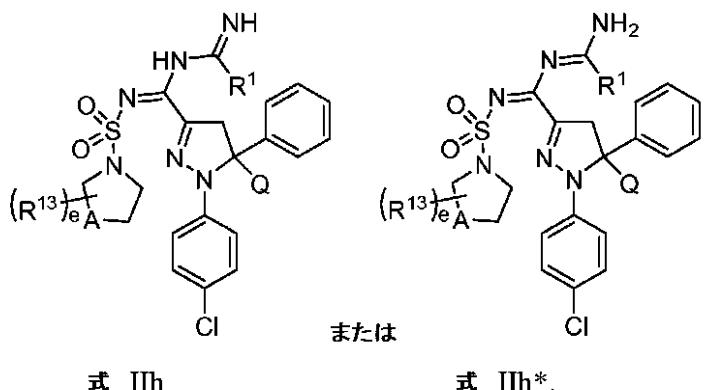
を有する、項目19に記載の化合物。

30

(項目23)

以下の構造：

【化65】



式 IIIh

式 IIIh*.

40

を有する、項目22に記載の化合物。

(項目24)

R¹が、必要に応じて置換されているアルキル（例えば、低級アルキル、チオール置換低級アルキル）、アミノカルボニル（例えば、アセトアミド）、または必要に応じて置換

50

されているフェニル（例えば、ハロゲン置換フェニル）である、項目1から23のいずれか一項に記載の化合物。

(項目25)

QがHである、項目1から24のいずれか一項に記載の化合物。

(項目26)

Aが、-CH₂-、-CF₂-、-O-、または-CH(CF₃)-である、項目1から25のいずれか一項に記載の化合物。

(項目27)

Dが-S(O)₂-である、項目1に記載の化合物。

(項目28)

nが0である、項目1または項目27に記載の化合物。

(項目29)

XおよびYがそれぞれ、必要に応じて置換されているフェニルであり、QがHである、項目1、27または28のいずれか一項に記載の化合物。

(項目30)

前記-NH-C(NH)R¹-部分または-N=C(NH₂)R¹-部分が、抗糖尿病剤、抗がん剤、抗肥満剤および抗線維化剤から選択される治療骨格を含む、項目1から29のいずれか一項に記載の化合物。

(項目31)

前記-NH-C(NH)R¹-部分または-N=C(NH₂)R¹-部分が診断剤を含む、項目1から29のいずれか一項に記載の化合物。

(項目32)

項目1から31のいずれか一項に記載の化合物および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物を含む、医薬組成物。

(項目33)

治療量の項目1から31のいずれか一項に記載の化合物、および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物からなる単位剤形を含む、医薬組成物。

(項目34)

被験体において、肥満、糖尿病、非アルコール性脂肪肝疾患およびアルコール性脂肪肝疾患、肥満の共存症、動脈硬化性心疾患の素因になる脂質異常症、糖尿病性腎症、または痛風を処置する方法であって、それを必要とする前記被験体に、治療有効量の項目1から31のいずれか一項に記載の化合物を投与するステップを含む、方法。

(項目35)

前記被験体において、肥満を処置するステップを含む、項目34に記載の方法。

(項目36)

前記被験体において、糖尿病を処置するステップを含む、項目34に記載の方法。

(項目37)

被験体において、脂肪組織の沈着を予防するかまたは元に戻す方法であって、それを必要とする前記被験体に、有効量の項目1から31のいずれか一項に記載の化合物を投与するステップを含む、方法。

(項目38)

前記化合物を投与しても、実質的に、神経精神医学的な有害作用を引き起こさない、項目34から37のいずれか一項に記載の方法。

(項目39)

前記化合物の投与により、脳内最高濃度と血漿中最高濃度との比が0.1未満となる、項目34から39のいずれか一項に記載の方法。

上記は、添付の図面を参照しながら進める、以下のいくつかの実施形態の詳細な説明から一層明らかになる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】図1は、本明細書において開示されている化合物を作製する一般的な合成方法の一実施形態を図示している。

【0013】

【図2】図2は、本明細書において開示されている化合物を作製する一般的な合成方法のさらなる実施形態を図示している。

【発明を実施するための形態】

【0014】

詳細な説明

専門用語

本化合物、組成物および方法を一層よく説明するため、および本開示の実施において、当業者に指針を与えるため、以下の用語および方法の説明が提示される。本開示において使用される専門用語は、特定の実施形態および例だけを説明することを目的としたものであり、限定を意図するものではないことも理解される。

10

【0015】

「アシル」とは、構造 - C(O)R を有する基を指し、R は、例えば、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているアリール、または必要に応じて置換されているヘテロアリールとすることができます。「低級アシル」基とは、1 ~ 6 個の炭素原子を含有する基である。例えば、アシル基は、例えばアセチル、プロパノイルまたはブタノイルとすることができます、(C₁ ~ C₆) アルカノイルとすることができます。

20

【0016】

「アシルオキシ」とは、構造 - OC(O)R を有する基を指し、R は、例えば、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているアリール、または必要に応じて置換されているヘテロアリールとすることができます。「低級アシルオキシ」基とは、1 ~ 6 個の炭素原子を含有する。例えば、アシルオキシは、(C₂ ~ C₆) アルカノイルオキシとすることができます、これは、例えば、アセトキシ、プロパノイルオキシ、ブタノイルオキシ、イソブタノイルオキシ、ペンタノイルオキシまたはヘキサノイルオキシとすることができます。

【0017】

本明細書で使用する「投与」とは、別の人による被験体への投与、または被験体による自己投与を含む。

30

【0018】

用語「脂肪族」とは、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、ハロゲン化アルキル基およびシクロアルキル基を含むものとして定義される。「低級脂肪族」基とは、1 ~ 10 個の炭素原子を有する分岐または非分岐脂肪族基である。

【0019】

「アルカンジイル」、「シクロアルカンジイル」、「アリールジイル」、「アルカンアリールジイル」とは、脂肪族、脂環式、アリール、およびアルカンアリール炭化水素に由来する二価のラジカルを指す。

【0020】

「アルケニル」とは、炭素および水素しか含まない環式、分岐鎖または直鎖の基を指し、コンジュゲートし得るかまたはコンジュゲートし得ない 1 つまたは複数の二重結合を含む。アルケニル基は、非置換であってもよく、または置換されていてもよい。「低級アルケニル」基とは、1 ~ 6 個の炭素原子を含有する。(C₂ ~ C₆) アルケニルは、例えば、ビニル、アリル、1 - プロペニル、2 - プロペニル、1 - ブテニル、2 - ブテニル、3 - ブテニル、1 - ペンテニル(1,-pentenyl)、2 - ペンテニル、3 - ペンテニル、4 - ペンテニル、1 - ヘキセニル、2 - ヘキセニル、3 - ヘキセニル、4 - ヘキセニルまたは 5 - ヘキセニルとすることができます。

40

【0021】

用語「アルコキシ」とは、1 ~ 20 個の炭素原子、好ましくは 1 ~ 8 個の炭素原子(「低級アルコキシ」と呼ばれる)、より好ましくは 1 ~ 4 個の炭素原子を含む、直鎖、分岐

50

または環式の炭化水素配置およびその組み合わせであって、結合点において酸素原子を含む、炭化水素配置を指す。「アルコキシ基」の例は、式 - O R により表され、R は、必要に応じて、アルケニル基、アルキニル基、アリール基、アラルキル基、シクロアルキル基、ハロゲン化アルキル基、アルコキシ基またはヘテロシクロアルキル基により置換されているアルキル基とすることができます。適切なアルコキシ基には、メトキシ、エトキシ、n - プロポキシ、i - プロポキシ、n - プトキシ、i - プトキシ、sec - プトキシ、tert - プトキシ シクロプロポキシ、シクロヘキシリオキシ、ペントキシ、3 - ペントキシまたはヘキシリオキシなどが含まれる。

【0022】

「アルコキシカルボニル」とは、アルコキシで置換されているカルボニルラジカル - C (O) OR を指し、R は、必要に応じて置換されているアルキル、アリール、アラルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキルまたは類似の部分を表す。(C₁ ~ C₆) アルコキシカルボニルは、例えば、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、ブトキシカルボニル、ペントキシカルボニルまたはヘキシリオキシカルボニルとすることができます。

【0023】

用語「アルキル」とは、メチル、エチル、n - プロピル、イソプロピル、n - ブチル、イソブチル、t - ブチル、ペンチル、ヘキシリ、ヘプチル、オクチル、デシル、テトラデシル、ヘキサデシル、エイコシル、テトラコシルなどの、炭素原子1 ~ 24個の分岐または非分岐の飽和炭化水素基を指す。「低級アルキル」基は、1 ~ 6個の炭素原子を有する飽和の分岐または非分岐の炭化水素である。好ましいアルキル基は、1 ~ 4個の炭素原子を有する。アルキル基は、「置換されているアルキル」であってもよく、この場合、1個または複数の水素原子が、ハロゲン、シクロアルキル、アルコキシ、アミノ、ヒドロキシリル、アリール、アルケニル、またはカルボキシリルなどの置換基により置換されている。例えば、低級アルキルまたは(C₁ ~ C₆) アルキルは、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、iso - ブチル、sec - ブチル、ペンチル、3 - ペンチル、またはヘキシリルとすることができます。(C₃ ~ C₆) シクロアルキルは、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、またはシクロヘキシリルとすることができます。(C₃ ~ C₆) シクロアルキル(C₁ ~ C₆) アルキルは、シクロプロピルメチル、シクロブチルメチル、シクロペンチルメチル、シクロヘキシリルメチル、2 - シクロプロピルエチル、2 - シクロブチルエチル、2 - シクロペンチルエチル、または2 - シクロヘキシリルエチルとすることができます。ハロ(C₁ ~ C₆) アルキルは、ヨードメチル、ブロモメチル、クロロメチル、フルオロメチル、トリフルオロメチル、2 - クロロエチル、2 - フルオロエチル、2, 2, 2 - トリフルオロエチル、またはペンタフルオロエチルとすることができます。あるいは、ヒドロキシ(C₁ ~ C₆) アルキルは、ヒドロキシメチル、1 - ヒドロキシエチル、2 - ヒドロキシエチル、1 - ヒドロキシプロピル、2 - ヒドロキシプロピル、3 - ヒドロキシプロピル、1 - ヒドロキシブチル、4 - ヒドロキシブチル、1 - ヒドロキシペンチル、5 - ヒドロキシペンチル、1 - ヒドロキシヘキシリル、または6 - ヒドロキシヘキシリルとすることができます。

【0024】

「アルキニル」とは、炭素および水素しか含有していない環式、分岐鎖または直鎖の基を指し、特に言及しない限り、1 ~ 12個の炭素原子を典型的に含有し、1つまたは複数の三重結合を含有する。アルキニル基は、非置換であってもよく、または置換されていてもよい。「低級アルキニル」基とは、2 ~ 6個の炭素原子を含有する基である。(C₂ ~ C₆) アルキニルは、例えば、エチニル、1 - プロピニル、2 - プロピニル、1 - ブチニル、2 - ブチニル、3 - ブチニル、1 - ペンチニル、2 - ペンチニル、3 - ペンチニル、4 - ペンチニル、1 - ヘキシニル、2 - ヘキシニル、3 - ヘキシニル、4 - ヘキシニルまたは5 - ヘキシニルとすることができます。

【0025】

用語「アミン」または「アミノ」は、式 - N R R' の基であって、R および R' が独立

10

20

30

40

50

して、水素、またはアルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アリール基、アラルキル基、シクロアルキル基、ハロゲン化アルキル基、またはヘテロシクロアルキル基とすることができます。基を指す。例えば、「アルキルアミノ」または「アルキル化アミノ」とは、-N(R)₂'であって、R'またはRの少なくとも1つはアルキルである、-N(R)₂'を指す。

【0026】

用語「アミノアルキル」とは、少なくとも1つの水素原子がアミノ基により置きかえられている（例えば、-CH₂-NH₂）、上で定義したアルキル基を指す。

【0027】

「アミノカルボニル」とは、単独または組み合わされて、アミノにより置換されているカルボニル（カルバモイル）ラジカルであって、該アミノラジカルが、必要に応じてアルキル、アリール、アラルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキル、アルカノイル、アルコキシカルボニル、アラルコキシカルボニルなどにより、一置換または二置換されてもよい、ラジカルを意味する。アミノカルボニル基は、-N(R)-C(=O)-R（Rは、置換基またはHである）とすることができる。適切なアミノカルボニル基は、アセトアミドである。

10

【0028】

用語「アミド（amide）」または「アミド（amido）」は、式-C(=O)NRR'により表され、RおよびR'は独立して、水素、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、アリール基、アラルキル基、シクロアルキル基、ハロゲン化アルキル基、またはヘテロシクロアルキル基とすることができます。

20

【0029】

「アナログ」とは、親化合物と化学構造が異なる分子、例えばホモログ（アルキル鎖長の差異または1つまたは複数の同位体を含有している点での差異などの、化学構造または質量の増加による差異がある）、分子のフラグメント、1つもしくは複数の官能基またはイオン化の変化によって異なる構造のことである。アナログは、必ずしも親化合物から合成されるものではない。誘導体とは、基本構造に由来する分子のことである。

【0030】

「動物」とは、例えば哺乳動物および鳥類を含む分類である、生きている多細胞脊椎生物を指す。用語、哺乳動物には、ヒトおよび非ヒト哺乳動物の両方が含まれる。同様に、用語「被験体」には、鳥類や、非ヒト靈長類、コンパニオン動物（イヌおよびネコなど）、家畜（ブタ、ヒツジ、ウシなど）、および大型のネコ科動物などの非家畜化動物などの非ヒト哺乳動物を含めた、ヒト被験体と非ヒト被験体の両方が含まれる。用語、被験体は、生物のライフサイクル中のステージにかかわらず適用される。したがって、用語、被験体は、生物に応じて、子宮内または卵内の生物に適用される（すなわち、該生物は、家畜化されたまたは野生の家禽などの哺乳動物または鳥類である）。

30

【0031】

用語「アラルキル」とは、アルキル基の水素の代わりにアリール基が用いられるアルキル基を指す。アラルキル基の一例は、ベンジル基である。

【0032】

「アリール」とは、単環（例えば、フェニル）または複数の縮合環（例えば、ナフチルまたはアントリル）を有する一価の不飽和芳香族炭素環式基を指し、これらの環は、必要に応じて非置換とすることができます。または置換されていることができる。「ヘテロアリール基」は、芳香族基の環内に組み込まれている少なくとも1個のヘテロ原子を有する芳香族基として定義される。ヘテロ原子の例には、以下に限定されないが、窒素、酸素、硫黄、およびリンが含まれる。ヘテロアリールには、以下に限定されないが、ピリジニル、ピラジニル、ピリミジニル、ピロリル、ピラゾリル、イミダゾリル、チアゾリル、オキサゾリル、イソオキサゾリル、チアジアゾリル、オキサジアゾリル、チオフェニル、フラニル、キノリニル、イソキノリニル、ベンゾイミダゾリル、ベンゾオキサゾリル、キノキサニルなどが含まれる。アリール基またはヘテロアリール基は、以下に限定されないが、ア

40

50

ルキル、アルキニル、アルケニル、アリール、ハライド、ニトロ、アミノ、エステル、ケトン、アルデヒド、ヒドロキシ、カルボン酸、またはアルコキシを含む1つまたは複数の基により置換されていることができ、またはアリール基もしくはヘテロアリール基は非置換とすることができます。

【0033】

「アリールオキシ」または「ヘテロアリールオキシ」は、式-OArの基を指し、Arは、それぞれアリール基またはヘテロアリール基である。

【0034】

「カルボニル」とは、-C(=O)を指す。

【0035】

用語「カルボキシレート」または「カルボキシル」とは、-COO⁻基または-COOH基を指す。カルボキシル基は、カルボン酸を形成することができる。「置換カルボキシル」とは、-COORを指し、Rは、アルキル、アルケニル、アルキニル、アリール、アラルキル、シクロアルキル、ハロゲン化アルキル、またはヘテロシクロアルキル基である。例えば、置換カルボキシル基は、カルボン酸エステルまたはその塩（例えば、カルボキシレート）とすることができます。

【0036】

用語「共投与」または「共投与する」とは、同じ一般的な期間内に本明細書において開示されている化合物と少なくとも1つの他の治療剤または診断剤とを投与することを指し、正確に同じ瞬間に投与することを必要とするものではない（しかし、共投与には、正確に同じ瞬間に投与することも含まれる）。したがって、共投与は、同一日または異なる日、あるいは同一週または異なる週に行われてもよい。

【0037】

用語「シクロアルキル」とは、少なくとも3個の炭素原子で構成される非芳香族性炭素ベースの環を指す。シクロアルキル基の例には、以下に限定されないが、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなどが含まれる。用語「ヘテロシクロアルキル基」は、上記で定義したシクロアルキル基であって、環の炭素原子の少なくとも1個が、以下に限定されないが、窒素、酸素、硫黄、またはリンなどのヘテロ原子により置換されているシクロアルキル基である。

【0038】

用語「エステル」とは、水素が例えば、C₁~₆アルキル基（「カルボキシルC₁~₆アルキル」または「アルキルエステル」）、アリール基またはアラルキル基（「アリールエステル」または「アラルキルエステル」）などにより置きかえられている、カルボキシル基含有部分を指す。例えば、メチルエステル(CO₂Me)、エチルエステル(CO₂Et)、およびプロピルエステル(CO₂Pr)などのCO₂C₁~₃アルキル基が好ましく、それらの逆エステル(reverse ester)（例えば、-OCOMe、-OCOEtおよび-OCOPr）を含む。

【0039】

用語「ハロゲン化アルキル」または「ハロアルキル基」とは、これらの基に存在している1個または複数の水素原子が、ハロゲン(F、Cl、Br、I)により置換されているアルキル基を指す。

【0040】

用語「ヒドロキシル」は、式-OHにより表される。

【0041】

用語「ヒドロキシアルキル」とは、少なくとも1個の水素原子がヒドロキシル基により置換されているアルキル基を指す。用語「アルコキシアルキル基」は、少なくとも1個の水素原子が、上記のアルコキシ基により置換されているアルキル基として定義される。

【0042】

「阻害する」とは、疾患または状態の完全な発症を阻害することを指す。「阻害する」は、対照に比べて、生物学的活性または生物学的結合を量的にいくらか低下さ

10

20

30

40

50

することも指す。

【0043】

「N - 複素環式」または「N - 複素環」とは、少なくとも1個の窒素ヘテロ原子を含む、単環式または二環式の環または環系を指す。環または環系は、ヘテロ原子（複数可）に加え、1~9個の炭素原子を一般に含んでおり、飽和、不飽和、または芳香族性（疑似芳香族性を含む）であってもよい。用語「疑似芳香族性」とは、厳密には芳香族性ではないが、電子の非局在化により安定化され、芳香族環と同様に挙動する環系を指す。芳香族には、ピロリル環などの疑似芳香族環系が含まれる。

【0044】

5員单環式N - 複素環の例には、ピロリル、H - ピロリル、ピロリニル、ピロリジニル、オキサゾリル、オキサジアゾリル、(1, 2, 3オキサジアゾリルおよび1, 2, 4オキサジアゾリルを含む)、イソオキサゾリル、フラザニル、チアゾリル、イソチアゾリル、ピラゾリル、ピラゾリニル、ピラゾリジニル、イミダゾリル、イミダゾリニル、トリアゾリル(1, 2, 3トリアゾリルおよび1, 3, 4トリアゾリルを含む)、テトラゾリル、チアジアゾリル(1, 2, 3チアジアゾリルおよび1, 3, 4チアジアゾリルを含む)、およびジチアゾリルが含まれる。6員单環式N - 複素環の例には、ピリジル、ピリミジニル、ピリダジニル、ピラジニル、ピペリジニル、モルホリニル、チオモルホリニル、ピペラジニル、およびトリアジニルが含まれる。複素環は、広範囲の置換基、好ましくはC_{1~6}アルキル、C_{1~6}アルコキシ、C_{2~6}アルケニル、C_{2~6}アルキニル、ハロ、ヒドロキシ、メルカプト、トリフルオロメチル、アミノ、シアノ、またはモノ(C_{1~6}アルキル)アミノもしくはジ(C_{1~6}アルキル)アミノにより、必要に応じて置換されていてもよい。N - 複素環式基は、フェニル、ナフチル、インデニル、アズレニル、フルオレニル、およびアントラセニルなどの炭素環式環に縮合していくてもよい。

【0045】

8、9および10員の二環式複素環の例には、1Hチエノ[2, 3-c]ピラゾリル、インドリル、イソインドリル、ベンゾオキサゾリル、ベンゾチアゾリル、ベンゾイソオキサゾリル、ベンゾイソチアゾリル、ベンゾイミダゾリル、インダゾリル、イソキノリニル、キノリニル、キノキサリニル、プリニル、シンノリニル、フタラジニル、キナゾリニル、キノキサリニル、ベンゾトリアジニルなどが含まれる。これらの複素環は、例えば、C_{1~6}アルキル、C_{1~6}アルコキシ、C_{2~6}アルケニル、C_{2~6}アルキニル、ハロ、ヒドロキシ、メルカプト、トリフルオロメチル、アミノ、シアノ、またはモノもしくはジ(C_{1~6}アルキル)アミノにより必要に応じて置換されていてもよい。特に定義していない限り、必要に応じて置換されているN - 複素環には、適切な環窒素のピリジニウム塩およびN - オキシド形態が含まれる。

【0046】

用語「被験体」には、鳥類ならびに、非ヒト靈長類、コンパニオン動物（イヌおよびネコなど）、家畜（ブタ、ヒツジ、ウシなど）、および大型のネコ科動物などの非家畜化動物などの非ヒト哺乳動物を含めた、ヒト被験体と非ヒト被験体の両方が含まれる。用語、被験体は、生物のライフサイクル中のステージにかかわらず適用される。したがって、用語、被験体は、生物に応じて、子宮内または卵内の生物に適用される（すなわち、該生物は、家畜化されたまたは野生の家禽などの哺乳動物または鳥類である）。

【0047】

「置換されている」または「置換」とは、分子の水素原子またはR基を、1つまたは複数のさらなるR基により置きかえることを指す。特に定義されていない限り、用語「必要に応じて置換されている」または「任意選択の置換基」とは、本明細書で使用する場合、1つ、2つ、3つ、4つまたはそれ以上の基、好ましくは1つ、2つまたは3つ、より好ましくは1つまた2つの基によりさらに置換されていてもよい、または置換されていなくてよい基を指す。置換基は、例えば、C_{1~6}アルキル、C_{2~6}アルケニル、C_{2~6}アルキニル、C_{3~8}シクロアルキル、ヒドロキシル、オキソ、C_{1~6}アルコキシ、アリールオキシ、C_{1~6}アルコキシアリール、ハロ、C_{1~6}アルキルハロ(CF₃)

10

20

30

40

50

および C H F₂ など)、C₁ ~ 6 アルコキシハロ(OCF₃ および OCHF₂ など)、カルボキシリ、エステル、シアノ、ニトロ、アミノ、置換アミノ、二置換アミノ、アシリ、ケトン、アミド、アミノアシリ、置換アミド、二置換アミド、チオール、アルキルチオ、チオオキソ、サルフェート、スルホネート、スルフィニル、置換スルフィニル、スルホニル、置換スルホニル、スルホニルアミド、置換スルホンアミド、二置換スルホンアミド、アリール、アルC₁ ~ 6 アルキル(arC₁ ~ 6 alkyl)、ヘテロシクリル、およびヘテロアリールから選択することができ、アルキル、アルケニル、アルキニル、シクロアルキル、アリールおよびヘテロシクリルのそれぞれ、ならびにそれらを含有する基は、さらに必要に応じて置換されていてもよい。N - 複素環の場合の任意選択の置換基は、以下に限定されないが、C₁ ~ 6 アルキルすなわち N - C₁ ~ 3 アルキル、より好ましくはメチル、特に N - メチルも含むことができる。

【0048】

「スルフィニル」とは、基 - S (=O) H を指す。

【0049】

用語「置換スルフィニル」または「スルホキシド」とは、水素が、例えば C₁ ~ 6 アルキル基(「C₁ ~ 6 アルキルスルフィニル」または「C₁ ~ 6 アルキルスルホキシド」)、アリール(「アリールスルフィニル」)、アラルキル(「アラルキルスルフィニル」)などにより置きかえられているスルフィニル基を指す。C₁ ~ 3 アルキルスルフィニル基は、例えば、- SO₂ Me、- SO₂ Et および - SO₂ Pr などが好ましい。

【0050】

用語「スルホニル」とは、基 - SO₂ H を指す。

【0051】

用語「置換スルホニル」とは、水素が、例えば C₁ ~ 6 アルキル基(「スルホニル C₁ ~ 6 アルキル」)、アリール(「アリールスルホニル」)、アラルキル(「アラルキルスルホニル」)、ヘテロアリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキルなどにより置きかえられているスルホニル基を指す。例えば、- SO₂ Me、- SO₂ Et および - SO₂ Pr などのスルホニル C₁ ~ 3 アルキル基が好ましい。

【0052】

用語「スルホニルアミド」または「スルホンアミド」とは、基 - SO₂ NH₂ を指す。

【0053】

「治療有効量」とは、指定される薬剤の量であって、該薬剤により処置される被験体において、所望の効果を実現するのに十分な量を指す。理想的には、治療有効量の薬剤は、被験体において、実質的な細胞毒性効果を引き起こすことなく、疾患もしくは状態を阻害するかまたは処置するのに十分な量である。薬剤の治療有効量は、処置されている被験体、苦痛の重症度、および治療組成物の投与方式に依存することになる。

【0054】

「チオール」は、基 - SH を指す。

【0055】

用語「置換されているチオール」とは、水素が、例えば C₁ ~ 6 アルキル基(「- S (C₁ ~ 6 アルキル)」)、アリール(「- S (アリール)」)、またはアラルキル(「- S (アルキル) (アリール)」)などにより置きかえられているチオール基を指す。(C₁ ~ C₆) アルキルチオは、例えば、メチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、イソブロピルチオ、ブチルチオ、イソブチルチオ、ペンチルチオまたはヘキシリチオとすることができます。

【0056】

「処置」とは、発症し始めた後の疾患または病態の徴候または症状を寛解する治療的介入、あるいは病变もしくは状態を発症するリスクを低減、または病变もしくは状態の重症度を軽減するために、疾患の徴候を示していないかまたは初期徴候しか示していない被験体に、化合物もしくは組成物を投与することを指す。本明細書で使用する場合、疾患または病態に関する「寛解する」という用語は、観察可能な処置のなんらかの有益な効果を指

10

20

30

40

50

す。有益な効果は、例えば、罹患しやすい被験体における疾患の臨床的症状の発症を遅延させること、疾患の臨床的症状の一部またはすべての重症度を低減すること、疾患の進行を遅らせること、被験体の総合的な健康または福祉の改善により、または特定の疾患に特有の、当技術分野で周知の他のパラメータにより、証明することができる。「疾患を処置する」という句は、例えば、糖尿病などの疾患のリスクがある被験体において、疾患の完全な発症を阻害することを指す。疾患または状態を「予防する」とは、病変もしくは状態を発症するリスクを低減するかまたは病変もしくは状態の重症度を軽減するために、疾患の徴候を示していないかまたは初期徴候しか示していない被験体に、組成物を予防的に投与することを指す。本明細書において開示されているある種の実施形態では、この処置は、被験体における食物摂取または体重増加を阻害する。本明細書において開示されているある種の実施形態では、この処置は、被験体における線維形成を阻害するか、またはインスリン抵抗性を元に戻す。

【0057】

「医薬組成物」とは、担体、希釈剤、および／またはアジュバント、および必要に応じて他の生物学的活性成分を含む、1種または複数の薬学的に許容される非毒性添加物と共に、1つまたは複数の本開示化合物の量（例えば、単位投与量）を含む組成物である。そのような医薬組成物は、Remington's Pharmaceutical Sciences、Mack Publishing Co.、Easton、PA（第19版）において開示されているものなどの、標準的な医薬製剤技法によって調製することができる。

【0058】

用語「薬学的に許容される塩またはエステル」とは、例えば、以下に限定されないが、塩酸、臭化水素酸、硫酸、リン酸、メタンスルホン酸、エタンスルホン酸、リンゴ酸、酢酸、シウ酸、酒石酸、クエン酸、乳酸、フマル酸、コハク酸、マレイン酸、サリチル酸、安息香酸、フェニル酢酸、マンデル酸などを含めた無機酸および有機酸の塩を含む、従来の手段によって調製される塩またはエステルを指す。本開示化合物の「薬学的に許容される塩」には、ナトリウム、カリウム、アルミニウム、カルシウム、リチウム、マグネシウム、亜鉛などの陽イオンから形成されるもの、ならびに、アンモニア、エチレンジアミン、N-メチル-グルタミン、リシン、アルギニン、オルニチン、コリン、N,N'-ジベンジルエチレンジアミン、クロロプロカイン、ジエタノールアミン、プロカイン、N-ベンジルフェネチルアミン、ジエチルアミン、ピペラジン、トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタン、および水酸化テトラメチルアンモニウムなどの塩基から形成されるものなども含まれる。これらの塩は、標準的手順、例えば遊離酸を適切な有機塩基または無機塩基と反応させることによって、調製することができる。本明細書において列挙されているいかなる化学化合物も、その薬学的に許容される塩として、代替的に投与することができる。「薬学的に許容される塩」は、遊離酸、塩基、および両性イオンの形態も含まれる。適切な薬学的に許容される塩の説明は、Handbook of Pharmaceutical Salts、Properties、Selection and Use、Wiley VCH（2002年）において見いだすことができる。本明細書において開示されている化合物が、カルボキシ基などの酸性官能基を含む場合、カルボキシ基に適した薬学的に許容される陽イオン対は、当業者に周知であり、アルカリ、アルカリ土類、アンモニウム、第四級アンモニウム陽イオンなどを含む。そのような塩は、当業者に公知である。「薬理学的に許容可能な塩」のさらなる例に関しては、BergeらJ. Pharm. Sci. 66巻：1号（1977年）を参照されたい。

【0059】

「薬学的に許容されるエステル」には、修飾してカルボキシル基を含む、本明細書に記載されている化合物に由来するものが含まれる。インビポでの加水分解性エステルとは、ヒトまたは動物の体内で加水分解されて、親の酸またはアルコールを生成するエステルである。したがって、代表的なエステルには、カルボン酸エステルであって、エステル原子団（grouping）のカルボン酸ポーションの非カルボニル部分が、直鎖または分岐鎖のアルキル（例えば、メチル、n-プロピル、t-ブチル、またはn-ブチル）、シクロアルキル、アルコキシアルキル（例えば、メトキシメチル）、アラルキル（例えば、ベンジル）

10

20

30

40

50

、アリールオキシアルキル（例えば、フェノキシメチル）、アリール（例えば、必要に応じて例えばハロゲン、C₁～₄アルキル、またはC₁～₄アルコキシにより置換されているフェニル）、またはアミノ；アルキルスルホニルもしくはアラルキルスルホニルなどのスルホン酸エステル（例えば、メタンスルホニル）、またはアミノ酸エステル（例えば、L-バリルまたはL-イソロイシル）から選択される、カルボン酸エステルを含む。「薬学的に許容されるエステル」は、一リン酸エステル、二リン酸エステル、または三リン酸エステルなどの無機エステルも含まれる。そのようなエステルでは、別段の指定がない限り、存在しているいずれのアルキル部分は、1～18個の炭素原子、具体的には1～6個の炭素原子、より具体的には1～4個の炭素原子を含有するのが有利である。そのようなエステル中に存在しているいずれのシクロアルキル部分も、3～6個の炭素原子を含有するのが有利である。そのようなエステル中に存在しているいずれのアリール部分も、上のカルボシクリル（carbocyclicyl）の定義において示されている通り、必要に応じて置換されているフェニル基を含むのが有利である。したがって、薬学的に許容されるエステルには、アセチル、t-ブチル、またはパルモイル（palmoyl）、ステアロイルなどの長い直鎖または分岐鎖の不飽和脂肪酸またはオメガ-6-不飽和脂肪酸などの、C₁～C₂₂脂肪酸エステルが含まれる。代替的なアリールエステルまたはヘテロアリールエステルには、ベンゾイル、ピリジルメチロイルなどが含まれ、これらのいずれも上のカルボシクリルにおいて定義されている通り、置換されていてもよい。さらなる薬学的に許容されるエステルには、ロイシル、イソロイシル、およびとりわけバリルなどの脂肪族L-アミノ酸エステルが含まれる。

10

20

【0060】

治療的使用に関して、本化合物の塩は、対イオンが薬学的に許容されるものである。しかし、薬学的に許容されない酸および塩基の塩も、例えば、薬学的に許容される化合物の調製または精製に使用することを見出すことができる。

【0061】

本明細書の上記の薬学的に許容される酸および塩基の付加塩は、本化合物が形成することができる、治療的に活性な非毒性の酸および塩基の付加塩形態を含むことが意図される。薬学的に許容される酸付加塩は、塩基形態をそのような適切な酸により処理することによって、都合よく得ることができる。適切な酸は、例えば、ハロゲン化水素酸、例えば塩酸または臭化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸などの無機酸、または例えば、酢酸、プロパン酸、ヒドロキシ酢酸、乳酸、ピルビン酸、シュウ酸（すなわち、エタン二酸）、マロン酸、コハク酸（すなわち、ブタン二酸）、マレイン酸、フマル酸、リンゴ酸（すなわち、ヒドロキシブタン二酸）、酒石酸、クエン酸、メタンスルホン酸、エタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、シクラミン酸、サリチル酸、p-アミノサリチル酸、バモ酸などの有機酸を含む。反対に、前記塩の形態は、適切な塩基で処理することにより、遊離塩基の形態に変換することができる。

30

【0062】

酸性プロトンを含有している化合物も、適切な有機塩基および無機塩基で処理することにより、その非毒性金属塩またはアミン付加塩の形態に変換することもできる。適切な塩基塩の形態は、例えば、アンモニウム塩、アルカリおよびアルカリ土類金属塩、例えばバリチウム塩、ナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、カルシウム塩など、有機塩基との塩、例えばベンザチン塩、N-メチル-D-グルカミン塩、ヒドラバミン塩、および例えば、アルギニン、リシンなどのアミノ酸との塩を含む。

40

【0063】

本明細書の上記で使用されている用語「付加塩」とは、本明細書に記載されている化合物が形成することのできる溶媒和物も含む。そのような溶媒和物は、例えば水和物、アルコラートなどである。

【0064】

本明細書の上記で使用されている用語「第四級アミン」は、化合物が、化合物の塩基性窒素と適切な第四級化剤（例えば、必要に応じて置換されているアルキルハライド、アリ

50

ールハライドまたはアリールアルキルハライド、例えば、ヨウ化メチルまたはヨウ化ベンジルなど)との間の反応により形成することができる、第四級アンモニウム塩と定義される。トリフルオロメタンスルホン酸アルキル、メタンスルホン酸アルキル、およびp-トルエンスルホン酸アルキルなどの、良好な脱離基を有する他の反応物も使用することができる。第四級アミンは正の電荷を帯びている窒素を有する。薬学的に許容される対イオンには、クロロ、ブロモ、ヨード、トリフルオロ酢酸、および酢酸が含まれる。選択される対イオンは、イオン交換樹脂を使用して導入することができる。

【0065】

本開示化合物のプロドラッグも、本明細書において考慮に入れられる。プロドラッグとは、被験体への該プロドラッグの投与後に、加水分解、代謝などのインビポでの生理作用を通じて、化学修飾されて活性化合物になる、活性または不活性化合物のことである。本文書全体にわたり使用されている用語「プロドラッグ」とは、誘導体のインビポでの生体変換で生じる生成物が本明細書に記載されている化合物において定義されている活性薬物となるような、エステル、アミドおよびホスフェートなどの薬理学的に許容される誘導体を意味する。プロドラッグは、好ましくは優れた水溶性、高いバイオアベイラビリティを有しており、インビポで活性な阻害剤へと容易に代謝されるものである。本明細書に記載されている化合物のプロドラッグは、修飾物が慣例的な操作かインビポのどちらかにより開裂して親化合物になるように、該化合物中に存在している官能基を修飾することによって調製することができる。プロドラッグの作製および使用に関わる、適合性および技法は、当業者によって周知である。エステルが関与するプロドラッグの全般的な考察に関しては、Svensson and Tunek, Drug Metabolism Reviews 165巻(1988年)およびBundgaard, Design of Prodrugs, Elsevier(1985年)を参照されたい。

【0066】

用語「プロドラッグ」はまた、プロドラッグが被験体に投与されると、本発明の活性な親薬物をインビポで放出する、共有結合している任意の担体も含むことが意図される。プロドラッグは、活性医薬品に比べて、溶解度およびバイオアベイラビリティなどの特性が向上していることが多いので、本明細書において開示されている化合物は、プロドラッグ形態で送達することができる。したがって、本開示化合物のプロドラッグ、プロドラッグを送達する方法、およびそのようなプロドラッグを含有する組成物も考えられる。本開示化合物のプロドラッグは、典型的には、修飾物が慣例的な操作かインビポのどちらかで開裂して親化合物を生じるよう、該化合物中に存在している1つまたは複数の官能基を修飾することによって調製される。プロドラッグには、インビポで開裂して、それぞれ対応するアミノ基および/またはホスホネート基を生じる任意の基により官能化されている、ホスホネート基および/またはアミノ基を有する化合物が含まれる。プロドラッグの例には、非限定的に、アシル化アミノ基、および/またはリン酸エステル基もしくはリン酸アミド基を有する化合物が含まれる。特定の例では、プロドラッグは、リン酸イソプロピルエステルなどのリン酸低級アルキルエステルである。

【0067】

本開示化合物の保護誘導体も、考慮に入れられる。開示化合物と共に使用するのに適した様々な保護基は、Greene and Wuts, Protective Groups in Organic Synthesis、第3版; John Wiley & Sons, New York, 1999年において開示されている。

【0068】

一般に、保護基は、分子の残りの部分に影響を及ぼさない条件下で除去される。これら の方法は、当技術分野において周知であり、酸加水分解、水素化分解などを含む。好ましい方法の1つは、TMS-Brを媒介とするエステル開裂において、遊離ホスホネートを生じさせるなどの、ルイス酸性条件を使用する、リン酸エステルの開裂などのエステルの除去を含む。第2の好ましい方法は、アルコール、酢酸など、またはそれらの混合物などの適切な溶媒系中のパラジウム炭素を利用する水素化分解によるベンジル基の除去などの保護基の除去を含む。t-ブトキシカルボニル保護基を含む、t-ブトキシベースの基は、水、ジオキサンおよび/または塩化メチレンなどの適切な溶媒系中で、HClまたは

10

20

30

40

50

トリフルオロ酢酸などの無機酸または有機酸を利用して除去することができる。アミノおよびヒドロキシ官能基を保護するのに適した、別の例示的な保護基は、トリチルである。他の従来の保護基は公知であり、適切な保護基は、Greene and Wuts、Protective Groups in Organic Synthesis、第3版、John Wiley&Sons、New York、1999年を参考にして、当業者により選択することができる。アミンが脱保護される場合、得られた塩は、容易に中和され、遊離アミンを生じさせることができる。同様に、ホスホン酸部分などの酸部分が現れる場合、該化合物は酸化合物として、またはその塩として単離してもよい。

【0069】

化合物

10

本明細書において、例えば線維症、糖尿病、肥満および肝臓がんの処置のための、新規の末梢限定的カンナビノイド受容体媒介性化合物が開示されている。カンナビノイド受容体は、CB₁および/またはCB₂受容体とすることができる。本化合物は、CB₂に対してCB₁に本質的に非選択的であってもよく、またはCB₁受容体もしくはCB₂受容体のどちらか一方に選択性を示してもよい。好ましい実施形態では、カンナビノイド受容体媒介性化合物は、CB₁受容体に選択的である。

【0070】

ある種の実施形態では、カンナビノイド受容体媒介性化合物は、カンナビノイド受容体インバースアゴニスト、特にCB₁インバースアゴニストである。ある種の実施形態では、カンナビノイド受容体媒介性化合物は、ニュートラルアンタゴニストである。CB₁インバースアゴニストとは、CB₁アゴニストの効果と反対の効果をそれ自体が生じさせる薬物であり、CB₁アゴニストの効果を遮断することもできる。対照的に、CB₁のニュートラルアンタゴニストは、後者（すなわち、CB₁アゴニストの効果を遮断する）だけを行うことができるが、それ自体効果を有さない。CB₁インバースアゴニズムとは、薬物が、GTPガムマS結合を減少させる、および/またはアデニル酸シクラーゼ活性を向上させる能力により、通常、立証される。本化合物は、GTPガムマSまたは-アレスチンの機能バイアス、またはGTPガムマSと-アレスチンの両方が活性であることを示し得る。

20

【0071】

ある種の実施形態では、本化合物は、末梢組織（例えば、脂肪組織、肝臓、筋肉、肺、腎臓、マクロファージ、臍臓ベータ細胞および消化管）におけるCB₁受容体を優先的に標的とする一方、脳組織中のCB₁受容体とは相互作用しない。末梢的に媒介される効果は維持されるが、CNS副作用は最小限であるか、または存在しない。

30

【0072】

内因性カンナビノイドの代謝効果が、少なくとも一部、末梢組織におけるCB₁受容体によって媒介される一方、神経精神医学的な副作用は、脳中のCB₁受容体によって媒介されるという証拠が存在する。これにより、脳に浸透する能力の低下したCB₁受容体遮断薬物は、それらの代謝的恩恵の一部またはほとんどを維持しながら、起こったとしても、神経精神医学的な副作用をほとんど引き起こさないことを示唆している。CB₁受容体遮断薬物の限定的な代謝有効性に関しては、このことは、細胞において2つ以上の標的に作用して、同じ代謝過程に影響を及ぼす二重活性化合物の設計により、改善することができる。一例として、そのような二次標的には、以下に限定されないが、酵素誘導型一酸化窒素合成酵素(iNOS)の阻害またはアデノシンーリン酸キナーゼ(AMPK)の活性化により、インスリン抵抗性が改善され、線維症および炎症が低減するという知見により示唆される、iNOSまたはAMPKが含まれ得る(Shinozaki Sら、J. Biol. Chem. 2012年、286巻(40号)、34959~34975頁、Young RJら、Bioorg. Med. Chem. Lett. 2000年、10巻(6号)、597~600頁、da Silva Moraes Aら、Clin. Sci. 2010年、118巻(6号)、411~420頁)。

40

本明細書において開示されているある種の実施形態は、脳浸透率が非常に低く、かつiNOSを阻害するかまたはAMPKを直接活性化する代謝産物を生じる、CB₁遮断化合物である

50

。

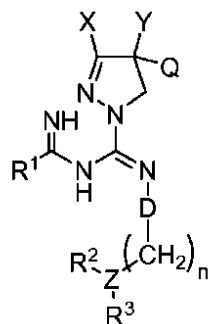
【0073】

ある種の実施形態では、末梢限定的カンナビノイドCB₁受容体媒介性化合物を特徴づけることができ、静脈内投与後にマウスで測定した、0.1未満である脳内最高濃度と血漿中最高濃度との比から同定することができる。好ましい末梢限定的カンナビノイドCB₁受容体媒介性化合物は、0.05未満である、脳C_{max}と血漿C_{max}との比を有する。とりわけ、好ましい末梢限定的カンナビノイド受容体媒介性化合物は、0.025未満である、脳C_{max}と血漿C_{max}との比を有する。

【0074】

一実施形態では、以下の構造：

【化4】



10

式 I

20

(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシリ、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

R¹、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニル、アラルキル、必要に応じて置換されているチオールからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、または必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環を形成し、

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

Dは、-S(O)₂-または-C(O)-であり、

nは0~5である)

30

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0075】

式Iのある種の実施形態では、R²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない。式Iのある種の実施形態では、R²およびR³は、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキル(特に、低級アルキル)である。式Iのある種の実施形態では、R²およびR³は、それぞれ独立して、アルキル(特に、低級アルキル)である。式Iのある種の実施形態では、R²およびR³はそれぞれ、同一(特に、低級アルキル)である。式Iのある種の実施形態では、ZはNであり、R²とR³はZと一緒にになって、必要

40

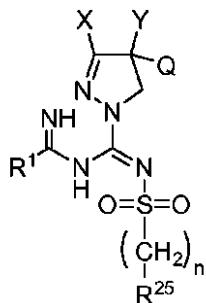
50

に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない。式Iのある種の実施形態では、ZはNであり、R²およびR³は、それぞれ独立して、アルキル（特に、低級アルキル）またはアラルキルである。式Iのある種の実施形態では、ZはNであり、R²およびR³は、それぞれ同一（特に、低級アルキル）である。式Iのある種の実施形態では、Dは-S(=O)₂-である。

【0076】

さらに、以下の構造：

【化5】



式 Ia

（式中、R²～⁵は、必要に応じて置換されているN-複素環である）
20
を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。ある種の実施形態では、このR²～⁵であるN-複素環は、ピロリル、H-ピロリル、ピロリニル、ピロリジニル、オキサゾリル、オキサジアゾリル、（1，2，3オキサジアゾリルおよび1，2，4オキサジアゾリルを含む）イソオキサゾリル、フラザニル、チアゾリル、イソチアゾリル、ピラゾリル、ピラゾリニル、ピラゾリジニル、イミダゾリル、イミダゾリニル、トリアゾリル（1，2，3トリアゾリルおよび1，3，4トリアゾリルを含む）、テトラゾリル、チアジアゾリル（1，2，3チアジアゾリルおよび1，3，4チアジアゾリルを含む）、ジチアゾリル、ピリジル、ピリミジニル、ピリダジニル、ピラジニル、ピペリジニル、モルホリニル、チオモルホリニル、ピペラジニルまたはトリアジニルから選択することができる。
30

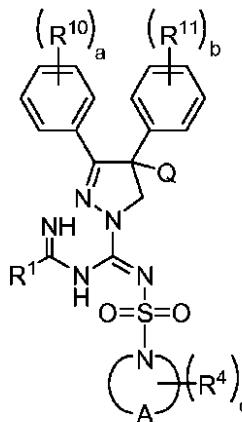
【0077】

式IまたはIaのある種の実施形態では、XおよびYはそれぞれ、必要に応じて置換されているアリールである。

【0078】

さらに、以下の構造：

【化6】



式 Ib

（式中、R⁴、R¹⁰およびR¹¹はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、

10

20

30

40

50

必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

A は、 - C H ₂ - 、 - O - 、 - C H (C F ₃) - 、 - C F ₂ - 、 - C C l ₂ - 、 - N (アルキル) - 、 - N (アリール) - 、 一置換 C - ヘテロアルキルもしくは二置換 C - ヘテロアルキル、一置換 C - アルキルもしくは二置換 C - アルキル、一置換 C - アリールもしくは二置換 C - アリール、一置換 C - シクロアルキルもしくは二置換 C - シクロアルキル 10 、 - C H (C O O R ² ⁰) - 、 - C H (C N) - 、 - S - 、 - S (O) - 、 - S (O ₂) - または - N (O) - であり、 R ² ⁰ は、 H またはアルキルであり、

a および b はそれぞれ、 0 ~ 5 であり、

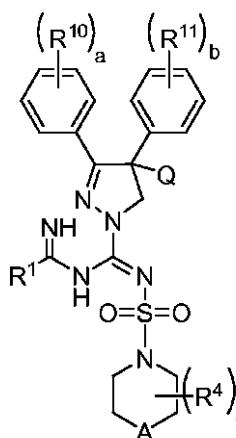
c は 0 ~ 7 である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【 0 0 7 9 】

さらに、以下の構造 :

【 化 7 】



式 Ic

20

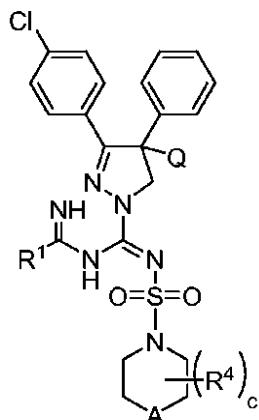
30

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

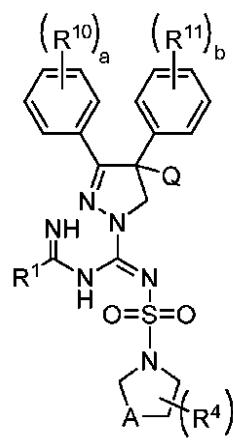
【 0 0 8 0 】

さらに、以下の構造 :

【化8】



式 Id



式 Ie

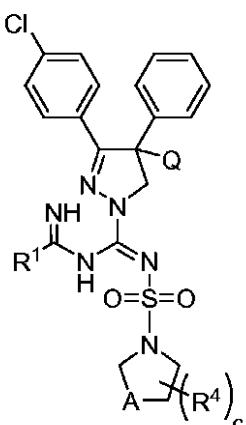
30

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0081】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化9】



式 If

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書にお

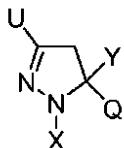
50

いて開示されている。

【0082】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化10】



式 II

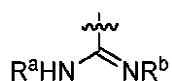
10

(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

Uは、

【化11】



20

(式中、R^aは-C(=NH)R¹であり、R¹は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、アミノカルボニル、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、R^bは、置換スルホニルまたは置換カルボニルである)

である)

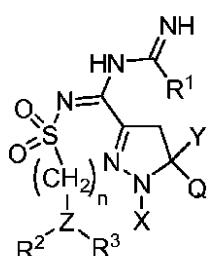
を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

30

【0083】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化12】



式 IIa

40

(式中、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニルからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³

50

はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環、必要に応じて置換されているアリール環、または必要に応じて置換されているヘテロアリール環を形成し、

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

nは0~5である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0084】

式IIaのある種の実施形態では、R²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない。式IIaのある種の実施形態では、R²およびR³は、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキル(特に、低級アルキル)である。式IIaのある種の実施形態では、R²およびR³は、それぞれ独立して、アルキル(特に、低級アルキル)である。式IIaのある種の実施形態では、R²およびR³はそれぞれ、同一(特に、低級アルキル)である。式IIaのある種の実施形態では、ZはNであり、R²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない。式IIaのある種の実施形態では、ZはNであり、R²およびR³は、それぞれ独立して、アルキル(特に、低級アルキル)またはアラルキルである。式IIaのある種の実施形態では、ZはNであり、R²およびR³はそれぞれ、同一(特に、低級アルキル)である。

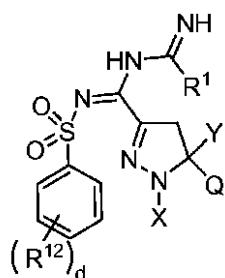
10

20

【0085】

さらなる実施形態では、以下の構造:

【化13】



30

式 IIb

(式中、R^{1~2}はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているヘテロアルキル、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシもしくは必要に応じて置換されているアルキルアミノ、必要に応じて置換されているアリール、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アシルまたはカルボニルから独立して選択され、dは0~5である)

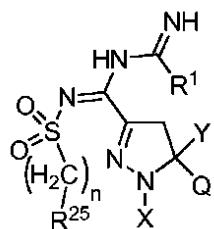
を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

40

【0086】

さらなる実施形態では、以下の構造:

【化14】



式 IIc

(式中、R^{2~5}は、必要に応じて置換されているN-複素環である)

10

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。ある種の実施形態では、このR^{2~5}であるN-複素環は、ピロリル、H-ピロリル、ピロリニル、ピロリジニル、オキサゾリル、オキサジアゾリル、(1, 2, 3オキサジアゾリルおよび1, 2, 4オキサジアゾリルを含む)イソオキサゾリル、フラザニル、チアゾリル、イソチアゾリル、ピラゾリル、ピラゾリニル、ピラゾリジニル、イミダゾリル、イミダゾリニル、トリアゾリル(1, 2, 3トリアゾリルおよび1, 3, 4トリアゾリルを含む)、テトラゾリル、チアジアゾリル(1, 2, 3チアジアゾリルおよび1, 3, 4チアジアゾリルを含む)、ジチアゾリル、ピリジル、ピリミジニル、ピリダジニル、ピラジニル、ピペリジニル、モルホリニル、チオモルホリニル、ピペラジニルまたはトリアジニルから選択することができる。

20

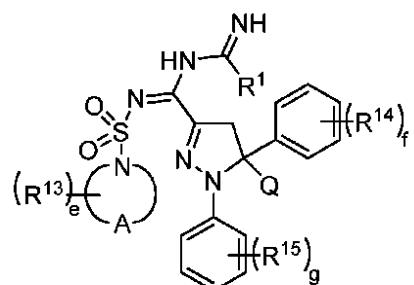
【0087】

式IIA、IIBまたはIICのある種の実施形態では、XおよびYはそれぞれ、必要に応じて置換されているアリールまたは必要に応じて置換されているヘテロアリールである。

【0088】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化15】



式 IIId

(式中、R^{1~3}、R^{1~4}およびR^{1~5}はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

30

Aは、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、一置換C-ヘテロアルキルもしくは二置換C-ヘテロアルキル、一置換C-アルキルもしくは二置換C-アルキル、一置換C-アリールもしくは二置換C-アリール、一置換C-シクロアルキルもしくは二置換C-シクロアルキル、-CH(COO^{2~0})-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-または-N(O)-であり、R^{2~0}は、Hまたはアルキルであり、

40

50

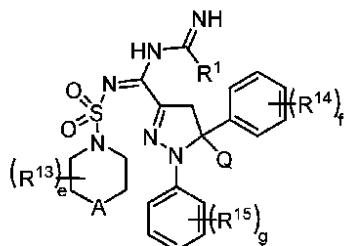
f および g はそれぞれ、0 ~ 5 であり、
g は 0 ~ 7 である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0089】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化16】



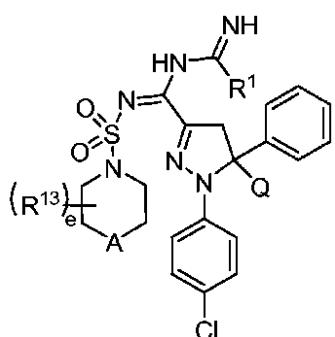
式 IIe

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0090】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化17】



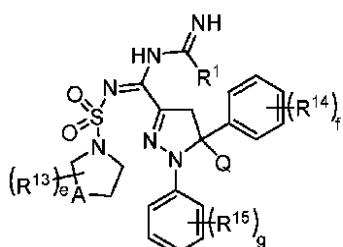
式 IIIf

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0091】

さらなる実施形態では、以下の構造：

【化18】



式 IIg

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0092】

10

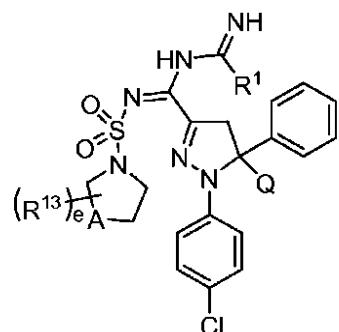
20

30

40

50

さらなる実施形態では、以下の構造：
【化19】



式 IIIh

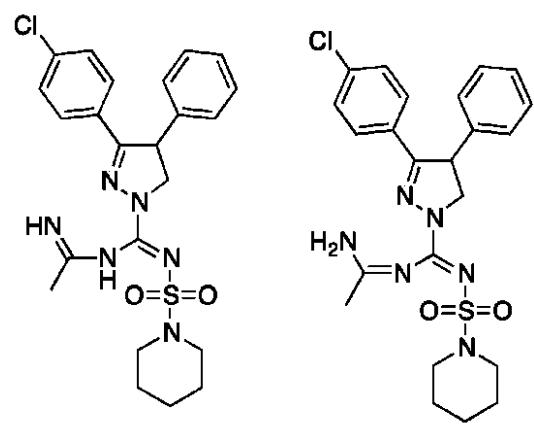
10

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステルが、本明細書において開示されている。

【0093】

ある種の実施形態では、本明細書において開示されている化合物は、「NH₂」互変異性体もしくは「NH」互変異性体として、またはそれらの両方の組合せとして存在することがある。例えば：

【化20】



20

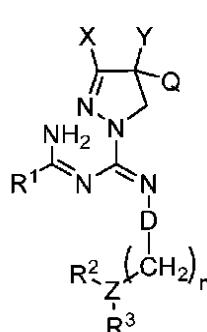
30

である。

【0094】

したがって、以下：

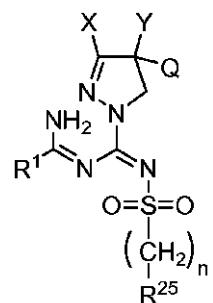
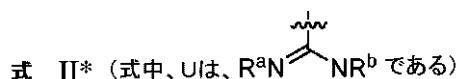
【化21】



40

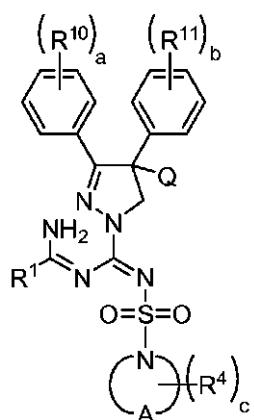
【化 2 2】

式 I*



式 Ia*

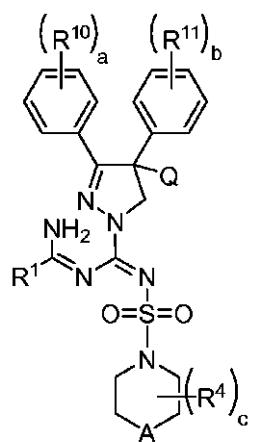
10



式 Ib*

20

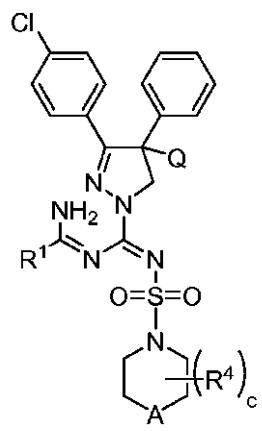
30



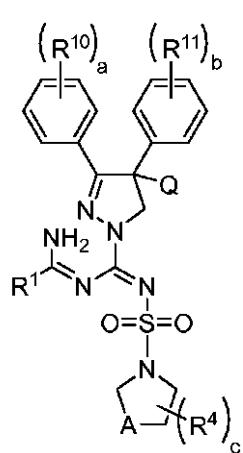
式 Ic*

40

【化 2 3】



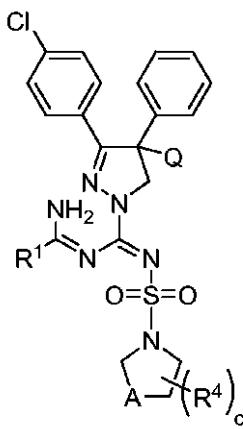
10



20

式 1e*

30



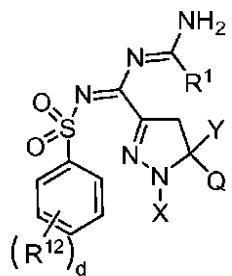
40

式 1f*

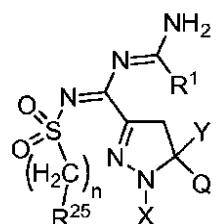
【化 2 4】



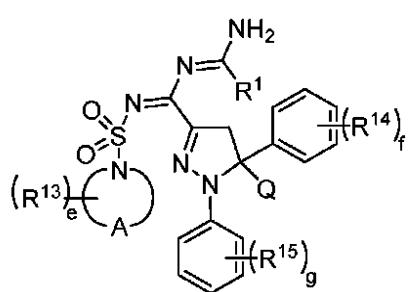
10



20

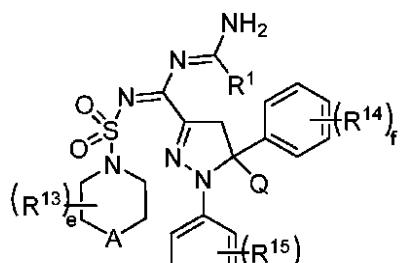


30



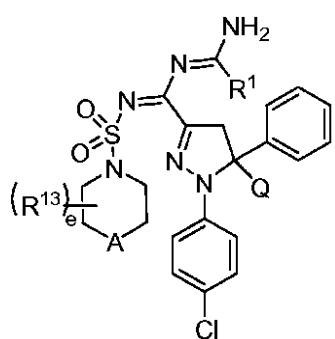
40

【化 25】



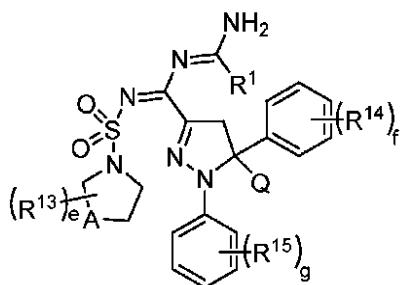
式 IIIe*

10



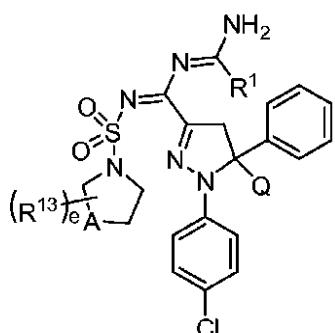
式 IIIf*

20



式 II Ig*

30



式 II Ih*

40

である、式 I および式 II (式中、置換基は上で定義した通りである) の「NH₂」互変異性体も本明細書において開示されている。

【0095】

50

上記の式のいずれかのある種の実施形態では、R¹は、必要に応じて置換されているアルキル（例えば、低級アルキル、チオール置換低級アルキル）、アミノカルボニル（例えば、アセトアミド）または必要に応じて置換されているフェニル（例えば、ハロゲン置換フェニル、特に、4-ハロゲン-フェニル）である。

【0096】

上記の式のいずれかのある種の実施形態では、QはHである。

【0097】

上記の式のいずれかのある種の実施形態では、Aは、-CH₂-、-CF₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-N(アルキル)-または一置換C-アリールもしくは二置換C-アリールである。

10

【0098】

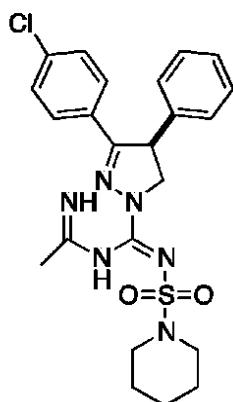
本開示化合物の特定の例には、1つまたは複数の不斉中心が含まれる。それゆえ、これらの化合物は、異なる立体異性体形態で存在することができる。したがって、化合物および組成物は、個々の純粋な鏡像異性体として、またはラセミ混合物を含む、立体異性体の混合物として提供されてもよい。ある種の実施形態では、本明細書において開示されている化合物は、例えば、鏡像異性体過剰率90%、鏡像異性体過剰率95%、鏡像異性体過剰率97%、またはエナンチオピュアな形態などの鏡像異性体過剰率99%を超えることさえあるような実質的にエナンチオピュアな形態で合成するか、またはそのように精製される。

【0099】

20

例えば、式Iの化合物は、立体異性体混合物、またはシス/トランス異性体、回転異性体、または互変異性体の形態とすることができます。ある種の実施形態では、式Iの化合物は、例えば以下：

【化26】



30

に示される通り、S-鏡像異性体として提供されてもよい。

【0100】

ある種の実施形態では、本明細書において開示されている薬剤は、(i)CB₁受容体媒介性骨格（例えば、インバースアゴニストまたはニュートラルアンタゴニスト）および(ii)第2の治療骨格を含む、ハイブリッド化合物である。ある種の実施形態では、本明細書において開示される式のいずれかにおける-NH-C(NH)R¹-部分または-N=C(NH₂)R¹-部分は、第2の治療骨格の少なくとも一部分を構成する。ある種の実施形態では、第2の治療骨格はインビボ開裂を受け、これにより、治療活性の少なくとも一部分を保持することができる第2の治療骨格を放出することができる。例えば、第2の治療骨格としてメトホルミンである場合、得られたハイブリッド化合物は、CB₁受容体を遮断するだけではなく、該化合物のインビボでの代謝中に、広く使用されている抗糖尿病剤であるメトホルミンが放出されるために、治療有効性を有することができる。このインビボ開裂は、身体中のどの位置でも起こり得るが、典型的には、シトクロムP450のアイソフォームなどの薬物代謝性酵素の作用により、肝臓において起こる。ある種の

40

50

実施形態では、この開裂は、本化合物のカルボキシミドアミドポーションの - NH - C (NH) R¹ - 部分または - N = C (NH₂) R¹ - 部分と C 原子との間の結合で起こる。

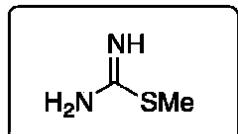
【0101】

例示的な第2の治療骨格には、抗糖尿病剤、抗がん剤、抗肥満剤、および抗線維化剤が含まれる。

【0102】

第2の治療骨格は、以下に示されている通り、または非置換の窒素末端における明らかな結合として暗示されている。

【化27】



【0103】

ある種の実施形態では、本明細書において開示されている化合物は、化学的安定性が改善されており、その結果、血漿中半減期が1～16時間の範囲、より具体的には4～8時間の範囲になる。

【0104】

ある種の実施形態では、本明細書において開示されている薬剤は、(i) CB₁受容体媒介性骨格(例えば、インバースアゴニストまたはニュートラルアンタゴニスト)、および(ii)診断剤または実体(entity)を含む、ハイブリッド化合物である。ある種の実施形態では、本明細書において開示されている式のいずれかにおける - NH - C (NH) R¹ - 部分または - N = C (NH₂) R¹ - 部分は、少なくとも一部の診断剤または実体(例えば、抗体、ビオチンタグ、¹⁸Fまたは¹¹Cを有する基)を構成する。あるいは、PET、SPECTイメージング、オートラジオグラフィーの場合の診断用部分は、高い親和性リガンドを与える式のいずれかのX、YまたはQポーションにおける原子を、²H、³H、¹¹C、¹³N、¹⁵O、¹⁸F、⁷⁵～⁷⁷Br、¹²³～¹³Iまたは⁹⁹mTcの様な放射性同位体原子により置き換えることによって得ることができる。この診断基または実体は、線維症、がん、心血管性疾患、代謝性疾患、炎症疾患および神経変性疾患の様な病変のイメージング診断において使用することができる。診断用化合物は、PET、SPECTなどの様な核医学、すなわち光学イメージングにおける、アフィニティー標識である蛍光プローブとして使用することができる。これらの化合物は、少なくとも診断性シグナル実体にリンクする標的CB₁骨格を含む。診断実体を有するCB₁骨格は、病変状態の少なくとも1つのマーカー、例えば病変状態において発現する、タンパク質、酵素または細胞受容体を、標的とすることができる。

【0105】

ある種の実施形態では、本明細書において開示されている化合物は、シトクロムP450活性が低いかまたではなく、このことは、本薬剤には、あるとしても、薬物-薬物相互作用をほとんど生じ得ないことを意味する。

【0106】

ある種の実施形態では、本明細書において開示されている化合物は、0.1～20nMの範囲のCB₁R結合親和性、および少なくとも20倍、より具体的には100倍以上のCB₁/CB₂選択性を有する。

【0107】

図1および図2は、本明細書において開示されている化合物を作製する一般的な合成方法を図示している。合成スキームIは、好適に置換されている市販の2-フェニルアセトフェノンを、二重活性を有する新規CB₁選択的インバースアゴニスト化合物に変換する一般経路を記載している。この合成手順を、式Iの1, 3, 4-三置換4, 5-ジヒドロ

10

20

30

40

50

ピラゾールに適用する。例えば、1 - (4 - クロロフェニル) - 2 - フェニルエタノンは、ピペリジンおよび酢酸を含有する37%ホルムアルデヒドを使用して、1 - (4 - クロロフェニル) - 2 - フェニルプロパ - 2 - エン - 1 - オンに変換することができる（工程a）。還流2 - プロパノール中の、アクリロフェノンのヒドラジン水和物による処理により、3 - (4 - クロロフェニル) - 4 - フェニル - 4 , 5 - ジヒドロ - 1 H - ピラゾールが生成する（工程b）（J. Agric. Food Chem. 1979年、27巻、406頁）。このピラゾリンを、クロロスルホニルイソシアネート（工程cおよびd）から得られた化合物VIのタイプのスルホニルカルバメートと縮合すると、ジアリールピラゾリンアシルスルホンアミド化合物VII（工程e）が得られた。先に記載した通り（J. Med. Che. 2004年、47巻、627頁およびChe, Ber. 1966年、99巻、2885頁、Bioorg. Med. Chem. Lett. 2010年、20巻、1752頁）、この生成物を、還流クロロベンゼン中、五塩化リンにより塩素化して、塩化イミドイル化合物VIIが得られた（工程f）。この塩化イミドイルを、メタノールおよびジクロロメタンの混合物中、トリエチルアミンの存在下、アセトアミジン塩酸塩の様な化合物と結合させ（工程g）、化合物IXの様な4 , 5 - ジヒドロ - 1 H - ピラゾール - 1 - カルボキシミド化合物が得られた。この化合物を、キラルカラムを使用する分取HPLC条件に供すると、光学的に純粋なRおよびS鏡像異性体が得られる。あるいは、ラセミ体のジアリールピラゾリンアシルスルホンアミドをキラルカラムで分離して、光学的に純粋な鏡像異性体のアシルスルホンアミドを得ることができ、このアシルスルホンアミドを、工程fおよびgにおいて示されているさらなる操作に個別に供することもできる。

【0108】

合成スキームIIは、市販のアルデヒドおよびヒドラジンを、二重活性を有する新規CB1選択的インバースアゴニスト化合物に変換する一般経路を記載している。この合成手順を、式IIの1 , 3 , 5 - 三置換4 , 5 - ジヒドロピラゾールに適用する。この合成は、参照文献、Bioorg. Med. Chem. Lett. 2010年、20巻、1752頁および/またはJ. Med. Che. 2007年、50巻、5951頁から適合することができる。工程aにある通り、ベンズアルデヒドの様なアルデヒドをピルビン酸により処理し、次いで、乾燥エタノール中、塩化アセチルで処理することにより（工程b）、- 不飽和ケトエステル化合物XIが得られる。エタノールおよび酢酸の溶液中、4 - クロロフェニルヒドラジンおよび化合物XIを還流すると（工程c）、ジヒドロピラゾールエステル化合物XIIが得られた。アルコール性KOH中のエステルの加水分解により、結合用前駆体である酸化合物XIII（工程d）が得られた。この酸は、塩基性条件下で、好適に置換されているフェニルスルホンアミド（工程e）または好適に置換されているアミノスルホンアミド（工程f）を使用して結合し、それぞれ、化合物XIVおよび化合物XVのタイプのアシルスルホンアミドを得ることができる。これらの化合物はそれぞれ、クロロベンゼンの還流中、PCl₅で処理することにより、または塩基の存在下、POCl₃で処理することによって、塩化イミドイル（化合物XVIおよびXVII）に個々に変換することができる（工程g）。塩基の存在下、アセトアミジンまたはSメチルチオウレアの様な化合物との反応により、最終のラセミ化合物（XVIIIおよびXIX）を得ることができ、この化合物をキラルHPLCにより分離すると、エナンチオピュアな最終化合物を得ることができる。

【0109】

組成物および使用方法

本明細書において開示されている末梢限定的カンナビノイド受容体媒介性薬剤は、これらが、メタボリックシンドロームのすべての、または少なくとも1つの局面を改善し得るという点で特有である。それらは、食物摂取量および体重を低下させ、インスリン抵抗性およびレプチン抵抗性を元に戻し、肝臓脂肪症（脂肪肝）を元に戻し、脂質異常症を改善する。それらは、肥満、糖尿病（例えば、2型糖尿病）、および非アルコール性脂肪肝疾患およびアルコール性脂肪肝疾患（NAFLD/AFLD）を処置するために使用することができ、後者は、インスリン抵抗性、肝硬変および肝臓がん、動脈硬化性心疾患の素因

10

20

30

40

50

となる脂質異常症、糖尿病性腎症、痛風、および線維症に対するリスク因子である。本明細書において開示されている薬剤は、全身的(globally)作用性CB₁アンタゴニストの使用の妨げとなる、精神医学的副作用を回避することができる。

【0110】

糖尿病障害は、1型糖尿病、2型糖尿病、不適当なグルコース耐性、および/またはインスリン抵抗性であり得る。

【0111】

本明細書において、肥満の共存症を処置する方法も開示されている。共存症は、糖尿病、メタボリックシンドローム、認知症、および心疾患から選択することができる。さらなる実施形態では、共存症は、高血圧症、胆囊疾患、胃腸障害、生理不順、退行性関節炎、静脈うっ血潰瘍、肺胞低換気症候群、睡眠時無呼吸、いびき、冠状動脈疾患、動脈硬化性疾患、偽脳腫瘍、事故傾性、外科的手術によるリスク増加、変形性関節症、高コレステロール、ならびに肝臓、卵巣、子宮頸部、子宮、乳房、前立腺(prostate)、および胆囊の悪性腫瘍の発生率の増加から選択される。10

【0112】

本明細書において、被験体における脂肪組織の沈着を予防するかまたは元に戻す方法も開示されている。脂肪組織の沈着を予防するかまたは元に戻すことによって、本明細書において開示されている化合物は、肥満の発生率または重症度を低下させて、これにより、関連共存症の発生率または重症度を低下させることが期待される。

【0113】

本開示の別の態様には、被験体に投与するために調製される医薬組成物であって、本明細書において開示されている治療有効量の1つまたは複数の化合物を含む、医薬組成物が含まれる。開示されている化合物の治療有効量は、投与経路、被験体の種、および処置される被験体の物理的特性に依存することになる。考慮に入れることができる特定の要因には、疾患の重症度およびステージ、体重、食事、および併用医薬が含まれる。開示化合物の治療有効量を決定するためのそのような要因の関係は、当業者によって理解される。20

【0114】

被験体への投与用医薬組成物は、選択された分子に加えて、担体、増粘剤、希釈剤、緩衝剤、保存剤、表面活性剤などの、薬学的に許容される少なくとも1種のさらなる添加物を含むことができる。医薬組成物は、抗微生物剤、抗炎症剤、麻酔剤などの1種または複数の追加的な活性成分も含み得る。これらの製剤に有用な薬学的に許容される担体は、従来のものである。E. W. MartinによるRemington's Pharmaceutical Sciences、Mack Publishing Co.、Easton、PA、第19版(1995年)には、本明細書において開示されている化合物の薬学的送達に適した組成物および製剤が記載されている。30

【0115】

一般に、担体の性質は、使用される特定の投与形式に依存することになる。例えば、非経口用製剤は、通常、ビヒクルとして水、生理食塩水、平衡塩類溶液、水性デキストロース、グリセロールなどの薬学的および生理学的に許容される液体を含む、注射可能な液剤を含有する。固体組成物(例えば、粉末、丸剤、錠剤、またはカプセルの形態)に関して、従来の非毒性固体担体は、例えば、医薬品グレードのマンニトール、ラクトース、デンプン、またはステアリン酸マグネシウムを含むことができる。生物学的に中性な担体に加えて、投与される医薬組成物は、湿潤剤または乳化剤、保存剤、およびpH緩衝化剤など、例えば酢酸ナトリウムまたはモノラウリン酸ソルビタンなどの、少量の非毒性の補助物質を含有することができる。40

【0116】

本明細書において開示されている医薬組成物は、開示化合物の薬学的に許容される塩および/または溶媒和物から形成されたものを含む。薬学的に許容される塩には、薬学的に許容される無機もしくは有機の塩基および酸から誘導されるものが含まれる。特定の開示化合物は、酸と酸・塩基の塩を形成することができる、少なくとも1つの塩基性基を有する。塩基性基の例には、以下に限定されないが、アミノ基およびイミノ基が含まれる。そ50

のような塩基性基と塩を形成することができる無機酸の例には、以下に限定されないが、塩酸、臭化水素酸、硫酸またはリン酸などの鉱酸が含まれる。塩基性基はまた、有機カルボン酸、スルホン酸、スルホ酸(sulfo acid)、またはホスホ酸(phospho acid)、またはN置換スルファミン酸、例えば酢酸、プロピオン酸、グリコール酸、コハク酸、マレイン酸、ヒドロキシマレイン酸、メチルマレイン酸、フマル酸、リンゴ酸、酒石酸、グルコン酸、グルカル酸、グルクロン酸、クエン酸、安息香酸、ケイ皮酸、マンデル酸、サリチル酸、4-アミノサリチル酸、2-フェノキシ安息香酸、2-アセトキシ安息香酸、エンポン酸、ニコチン酸またはイソニコチン酸との塩、さらに、アミノ酸、例えば-D-アミノ酸との塩、そしてさらにメタンスルホン酸、エタンスルホン酸、2-ヒドロキシメタンスルホン酸、エタン-1,2-ニスルホン酸、ベンゼンニスルホン酸、4-メチルベンゼンスルホン酸、ナフタレン-2-スルホン酸、2-または3-ホスホグリセリン酸、グルコース-6-リン酸、またはN-シクロヘキシルスルファミン酸(シクラメートの形成を伴う)との塩、またはアスコルビン酸などの他の酸性有機化合物との塩を形成することができる。特に、適切な塩には、製薬分野において周知の多数の他の酸の中で、カリウムおよびナトリウムなどのアルカリ金属、カルシウムおよびマグネシウムなどのアルカリ土類金属に由来するものが含まれる。
10

【0117】

ある種の化合物には、無機塩基または有機塩基と酸-塩基の塩を形成することができる、少なくとも1つの酸性基が含まれる。無機塩基から形成される塩の例には、本開示化合物と、カリウムおよびナトリウムなどのアルカリ金属、カルシウムおよびマグネシウムなどを含むアルカリ土類金属との塩が含まれる。同様に、塩基性アミノ酸、脂肪族アミン、複素環式アミン、芳香族アミン、ピリジン、グアニジン、およびアミジンと形成する塩を含めた、酸性化合物とアミン(本明細書で使用する場合、アミンを指す用語は、文脈が遊離アミンを意図すると明確に示していない限り、アミンのコンジュゲート酸を含むと理解すべきである)などの有機塩基との塩も考えられる。脂肪族アミンの中で、非環式脂肪族アミン、ならびに環式および非環式のジトリアルキルアミンおよびトリアルキルアミンが、本開示化合物において使用するのに、特に適している。さらに、四級アンモニウム対イオンも使用することができる。
20

【0118】

本化合物において使用するのに適したアミン塩基(およびその対応するアンモニウムイオン)の具体的な例には、非限定的に、ピリジン、N,N-ジメチルアミノピリジン、ジアザビシクロノナン、ジアザビシクロウンデセン、N-メチル-N-エチルアミン、ジエチルアミン、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、モノ-、ビス-またはトリス-(2-ヒドロキシエチル)アミン、2-ヒドロキシ-tert-ブチルアミン、トリス(ヒドロキシメチル)メチルアミン、N,N-ジメチル-N-(2-ヒドロキシエチル)アミン、トリ-(2-ヒドロキシエチル)アミン、およびN-メチル-D-グルカミンが含まれる。「薬理学的に許容可能な塩」のさらなる例に関しては、BergeらJ. Pharm. Sci. 66巻、1号(1977年)を参照されたい。
30

【0119】

本明細書において開示されている化合物は、結晶化することができ、単一結晶形態で、または異なる結晶多形の組合せ物として、提供することができる。こうして、本化合物は、異なる結晶形態、結晶、液晶、または非結晶(アモルファス)形態などの1つまたは複数の物理的形態で提供することができる。本化合物のそのような異なる物理形態は、例えば、再結晶化用の様々な溶媒、または様々な溶媒混合物を使用して調製することができる。あるいは、または追加的に、異なる多形を、例えば、異なる温度において再結晶を実施することによって、および/または再結晶中に冷却速度を変えることによって、調製することができる。多形の存在は、X線結晶構造解析法により、または一部の場合、固相NMR分光法、IR分光法などの別の分光学的技法により、または示差走査熱量測定により決定することができる。
40

【0120】

本医薬組成物は、経口、直腸、鼻内、肺内、または経皮送達によるもの、または他の表面への局所送達によるものを含む、様々な粘膜の投与形式によって、被験体に投与することができる。必要に応じて、本組成物は、筋肉内、皮下、静脈内、動脈内、関節内、腹腔内、髄腔下、脳室内、または非経口経路によるものを含む、非粘膜経路により投与することができる。別の代替的な実施形態では、本化合物は、被験体に由来する、細胞、組織、または臓器に直接曝露することによるエクスピボで投与することができる。

【0121】

医薬組成物を製剤化するため、本化合物は、様々な薬学的に許容される添加物、および本化合物の分散液基剤またはビヒクルと組み合わせることができる。所望の添加物には、以下に限定されないが、アルギニン、水酸化ナトリウム、グリシン、塩酸、クエン酸などのpH制御剤が含まれる。さらに、局所麻酔剤（例えば、ベンジルアルコール）、等張化剤（例えば、塩化ナトリウム、マンニトール、ソルビトール）、吸着阻害剤（例えば、Tween 80またはMiglyol 812）、溶解促進剤（例えば、シクロデキストリンおよびその誘導体）、安定剤（例えば、血清アルブミン）、および還元剤（例えば、グルタチオン）が含まれ得る。当技術分野において周知の他の多くの適切なアジュバントの中で、水酸化アルミニウム（例えば、Amphogel、Wyeth Laboratories、Madison、NJ）、フロイントアジュバント、MPL（商標）（3-O-脱アシル化モノホスホリル脂質A、Corixa、Hamilton、IN）およびIL-12（Genetics Institute、Cambridge、MA）などのアジュバントが、本組成物中に含まれ得る。本組成物が液体である場合、一単位として見なされる0.9%（w/v）の生理食塩水溶液の浸透圧を参照して測定した、製剤の浸透圧は、典型的には、実質的に非可逆性の組織損傷が投与部位において誘導されない値に調整される。一般に、溶液の浸透圧は、約0.5～約2.0または約0.8～約1.7などの約0.3～約3.0の値に調整される。10

【0122】

本化合物は、基剤またはビヒクル中に分散することができ、これらには、該化合物を分散する能力がある親水性化合物、および任意の所望の添加物が含まれ得る。基剤は、以下に限定されないが、ポリカルボン酸またはその塩、カルボン酸無水物（例えば、無水マレイン酸）と他のモノマー（例えば、（メタ）アクリル酸メチル、アクリル酸など）とのコポリマー、親水性ビニルポリマー（ポリビニルアセテート、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドンなど）、セルロース誘導体（ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロースなど）、および天然ポリマー（キトサン、コラーゲン、アルギン酸ナトリウム、ゼラチン、ヒアルロン酸、およびそれらの非毒性金属塩など）を含む、幅広い範囲の適切な化合物から選択することができる。多くの場合、生分解性ポリマーは、基剤またはビヒクル、例えば、ポリ乳酸、ポリ（乳酸-グリコール酸）コポリマー、ポリヒドロキシ酪酸、ポリ（ヒドロキシ酪酸-グリコール酸）コポリマー、およびそれらの混合物として選択される。あるいは、または追加的に、ポリグリセリン脂肪酸エステル、スクロース脂肪酸エステルなど合成脂肪酸エステルをビヒクルとして使用することができる。親水性ポリマーおよび他のビヒクルは、単独または組み合わせて使用することができ、構造的完全性の強化は、部分結晶化、イオン結合、架橋などによって、ビヒクルに付与することができる。ビヒクルは、粘膜表面への直接適用のための、流体溶液または粘性溶液、ゲル、ペースト、粉末、マイクロスフィアおよびフィルムを含む、様々な形態で提供することができる。30

【0123】

本化合物は、様々な方法に従って、基剤またはビヒクルと組み合わせることができ、本化合物の放出は拡散、ビヒクルの崩壊、または水チャネルの付随形成（associated formation of water channels）によるものとすることができます。いくつかの状況では、本化合物は、適切なポリマー、例えば、2-シアノアクリル酸イソブチルから調製されるマイクロカプセル（マイクロスフィア）またはナノカプセル（ナノスフィア）中で分散される（例えば、Michaelら、J. Pharmacy Pharmacol. 43巻：1～5頁、1991年）4050

、ならびに長期間にわたり、持続送達および生物学的活性をもたらす生体適合性分散用媒体中で分散される。

【0124】

本開示の組成物は、pH調整剤および緩衝化剤、浸透圧調整剤、湿潤剤など、例えば酢酸ナトリウム、乳酸ナトリウム、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化カルシウム、モノラウリン酸ソルビタン、およびオレイン酸トリエタノールアミンなどの、ほぼ生理的条件下に必要とされる薬学的に許容されるビヒクル物質を代替的に含有することができる。固体組成物に関しては、従来の薬学的に許容される非毒性ビヒクルを使用することができ、例えば、医薬品グレードのマンニトール、ラクトース、デンプン、ステアリン酸マグネシウム、サッカリンナトリウム、滑石、セルロース、グルコース、スクロース、炭酸マグネシウムなどを含む。

10

【0125】

本化合物を投与するための医薬組成物は、高濃度の活性成分に適した、溶液、マイクロエマルションまたは他の規則正しい構造物として製剤化することもできる。このビヒクルは、例えば、水、エタノール、ポリオール（例えば、グリセロール、プロピレングリコール、液状ポリエチレングリコールなど）、および適切なそれらの混合物を含有する、溶媒または分散用媒体とすることができる。溶液に適した流動性は、例えば、レシチンなどのコーティングの使用により、分散製剤の場合、所望の粒子サイズの維持により、および界面活性剤の使用により、維持することができる。多くの場合では、等張剤、例えば、糖、マンニトールおよびソルビトールなどのポリアルコール、または塩化ナトリウムを本組成物中に含ませることが望ましい。本化合物の吸収の延長は、組成物中に、吸収を遅延させる作用剤、例えばモノモヌステアリン酸塩およびゼラチンを含めることにより、もたらすことができる。

20

【0126】

ある種の実施形態では、本化合物は、時間持続性放出製剤（time release formulation）において、例えば、遅延放出ポリマーを含む組成物において、投与することができる。これらの組成物は、急速放出から保護するビヒクル、例えば、ポリマー、マイクロカプセル封入された送達系、または生体接着性ゲルなどの制御放出ビヒクルを用いて調製することができる。本開示の様々な組成物中の送達の延長は、本組成物中に、吸収を遅延させる作用剤、例えば、モノステアリン酸アルミニウムヒドロゲルおよびゼラチンを含めることにより、もたらすことができる。制御放出製剤が望まれる場合、本開示による使用に適した制御放出用結合剤には、活性剤に対して不活性であり、かつ本化合物および／または他の生物学的活性剤を組み込むことができる、任意の生体適合性制御放出材料が含まれる。多数のそのような材料が、当技術分野で公知である。有用な制御放出用結合剤は、それらの送達（例えば、粘膜の表面において、または体液の存在下）後の生理的条件下で、ゆっくり代謝される材料である。適切な結合剤には、以下に限定されないが、徐放製剤中で使用するために当技術分野で周知の生体適合性ポリマーおよびコポリマーが含まれる。そのような生体適合性化合物は非毒性であり、周囲組織に対して不活性であり、鼻の刺激、免疫応答、炎症などの顕著な有害な副作用を引き起こさないものである。それらは代謝されて、さらに生体適合性であり、かつ身体から容易に除かれる代謝産物になる。

30

【0127】

本開示において使用するための例示的なポリマー材料には、以下に限定されないが、加水分解性エステル結合を有するコポリマーおよびホモポリマーのポリエステルから誘導されるポリマーマトリックスが含まれる。これらのいくつかは、当技術分野において、生分解性であること、および毒性がないかまたは低い分解産物に至ることが公知である。例示的なポリマーには、ポリグリコール酸およびポリ乳酸、ポリ（D L - 乳酸 - c o - グリコール酸）、ポリ（D - 乳酸 - c o - グリコール酸）、およびポリ（L - 乳酸 - c o - グリコール酸）が含まれる。他の有用な生分解性または生体浸食性ポリマーには、以下に限定されないが、ポリ（イップシロン - カプロラクトン）、ポリ（イップシロン - カプロラクトン（aprolactone） - C O - 乳酸）、ポリ（イップシロン - カプロラクトン - C O - グリコ-

40

50

ル酸)、ポリ(ベータ-ヒドロキシ酪酸)、ポリ(アルキル-2-シアノアクリレート(cyanoacrilate))のようなポリマー、ポリ(ヒドロキシエチルメタクリレート)、ポリアミド、ポリ(アミノ酸)(例えば、L-ロイシン、グルタミン酸、L-アスパラギン酸など)、ポリ(エステル尿素)、ポリ(2-ヒドロキシエチルDL-アスパルトアミド)、ポリアセタールポリマー、ポリオルトエステル、ポリカーボネート、ポリマレイミド(polymaleimides)、多糖類、およびそれらのコポリマーなどのヒドロゲルが含まれる。そのような製剤を調製する多くの方法は、当業者に周知である(例えば、Sustained and Controlled Release Drug Delivery Systems, J. R. Robinson(編)、Marcel Dekker, Inc., New York, 1978年を参照されたい)。他の有用な製剤には、制御放出マイクロカプセル(米国特許第4,652,441号および第4,917,893号)、マイクロカプセルおよび他の製剤を作製するのに有用な乳酸-グリコール酸コポリマー(米国特許第4,677,191号および米国特許第4,728,721号)、および水-可溶性ペプチド用徐放組成物(米国特許第4,675,189号)が含まれる。

【0128】

本開示の医薬組成物は、典型的には、無菌であり、製造、貯蔵および使用の条件下で安定している。滅菌溶液は、本明細書において列挙されている成分の1種または組合せ物を含む適切な溶媒中、必要な量で本化合物を組み込み、次いで、必要な場合、ろ過滅菌することにより調製することができる。一般に、分散液は、本化合物および/または他の生物学的活性剤を、基本的な分散媒体、および本明細書において列挙されているものからの必要な他の成分を含有する滅菌ビヒクルに組み込むことにより調製される。滅菌粉末の場合、調製法には、化合物の粉末および任意の追加の所望成分が既に滅菌ろ過したその溶液から生じる、真空乾燥および凍結乾燥が含まれる。微生物の作用の防止は、様々な抗菌剤および抗真菌剤、例えば、パラベン、クロロブタノール、フェノール、ソルビン酸、チメロサールなどによって達成することができる。

【0129】

本開示の様々な処置方法によれば、本化合物は、処置または予防が求められる障害の管理に関連する従来の方法論に一貫するやり方で、被験体に送達することができる。本明細書における開示によれば、予防有効量もしくは治療有効量の本化合物、および/または他の生物学的活性剤は、一時の間、ならびに選択された疾患もしくは状態、またはそれらの1つもしくは複数の症状を予防する、阻害する、および/または改善するのに十分な条件下で、そのような処置を必要とする被験体に投与される。

【0130】

本開示の化合物の投与は、予防目的または治療目的のいずれかとすることができます。予防的に与える場合、本化合物は任意の症状の前に与える。本化合物の予防的投与は、その後の疾患過程のいずれも予防するか、または改善するよう働く。治療的に与える場合、本化合物は、疾患または感染の症状の発症時(または直後)に与える。

【0131】

予防目的および治療目的の場合、本化合物は、長期間にわたって、または繰り返し投与プロトコル(例えば、1時間ごと、毎日、または毎週の繰り返し投与プロトコル)で、連続送達(例えば、連続経皮送達、連続粘膜送達、または連続静脈内送達)により、経口経路によって、または単一ボーラス送達で、被験体に投与することができる。治療有効投与量の本化合物は、臨床的に有意な結果をもたらして、本明細書において説明されている標的とする疾患または状態に関連する、1種もしくは複数の症状または検出可能な状態を緩和する、長期予防または処置レジメンの範囲内での繰り返し用量として、与えることができる。本文脈における有効投与量の決定は、典型的には、動物モデル研究、それに続くヒト臨床試験に基づいており、被験体において、標的とする疾患症状または状態の発生または重症度を有意に低下する投与プロトコルによって、指針が示される。この点に関する適切なモデルには、例えば、マウス、ラット、鳥、イヌ、ヒツジ、ブタ、ネコ、非ヒト霊長類、および当技術分野で公知の許容される他の動物モデルの被験体が含まれる。あるいは、有効投与量はインビトロモデルを使用して決定することができる。そのようなモデルを

10

20

30

40

50

使用して、通常の計算および調整しか必要としないで、治療有効量の本化合物を投与するための適切な濃度および用量が決定される（例えば、標的となる疾患の1種または複数の症状を緩和するのに有効な量）。代替的な実施形態では、本化合物の有効量または有用用量は、治療目的または診断目的のどちらかのために、本明細書において説明されている疾患または状態に相関する、1種または複数の選択される生物学的活性を単純に阻害するか、または強化することができる。

【0132】

本化合物の実際の投与量は、被験体の疾患の適応症および特定の状況（例えば、被験体の年齢、サイズ、体の調子、症状の程度、感受性要因など）、投与時間および投与経路、同時投与される他の薬物または処置、ならびに被験体において所望の活性または生物学的応答を惹起するための本化合物の具体的な薬理などの要因によって、変わり得る。10 投与量レジメンは、最適な予防的または治療的応答をもたらすよう、調整することができる。治療有効量とはまた、臨床期間中に、治療的に有益な効果が、本化合物および／または他の生物学的活性剤のいかなる毒性または有害性副作用を上回る量である。本開示の方法および製剤の範囲内における化合物および／または他の生物学的活性剤の治療有効量の非限定的範囲は、約0.05mg/kg～約5mg/kg体重、または約0.2mg/kg～約2mg/kg体重などの、約0.01mg/kg体重～約20mg/kg体重である。

【0133】

投与量は、主治医により、標的部位（例えば、肺または体循環）において所望の濃度を維持するよう変え得る。より高い濃度またはより低い濃度は、送達形式、例えば、経表皮送達、直腸送達、経口送達、肺送達、骨内送達、または鼻腔内送達対静脈内送達または皮下送達または筋肉内送達に基づいて選択することができる。投与量は、投与製剤、例えば、粉末に対して肺内スプレー製剤、注射用粒子製剤または経皮送達製剤に対して徐放経口製剤などの放出速度に基づいて調整することもできる。20

【0134】

本明細書において開示されている化合物は、追加の治療剤と共に投与することもできる。そのような薬剤には、以下に限定されないが、抗糖尿病剤、コレステロール低下剤、抗炎症剤、抗微生物剤、マトリックスメタロプロテアーゼ阻害剤、リポキシゲナーゼ阻害剤、サイトカインアンタゴニスト、免疫抑制剤、抗がん剤、抗ウイルス剤、サイトカイン、増殖因子、免疫調節剤、プロスタグランジン、または抗血管過剰増殖化合物が含まれる。30

【0135】

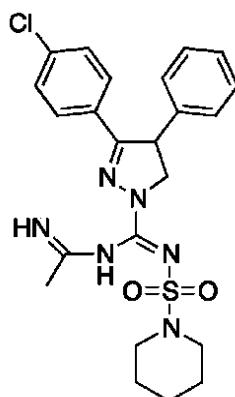
本開示にはまた、哺乳動物の被験体において、疾患および他の状態の予防および処置に使用するための、本明細書において記載されている医薬組成物、活性成分、および／またはそれらを投与する手段を含む、キット、パッケージ、および複数容器ユニットも含まれる。診断に使用するキットも提供される。一実施形態では、これらのキットには、本明細書に記載されている1つまたは複数の化合物を含有する、容器または製剤が含まれる。一例において、この構成要素は、被験体に送達するために、医薬調製物の中で製剤化される。本化合物は、バルク分配容器またはユニットまたは複数単位剤形に必要に応じて含有される。任意選択の分配手段、例えば肺または鼻内スプレー用アプリケータを提供することができる。パッケージ材料には、どのような処置目的、および／またはそれと一緒にパッケージされている医薬品をどのような様式で使用することができるかを示したラベルまたは指示書が必要に応じて含まれる。40

【実施例】

【0136】

例示的実施例1：

【化28】



10

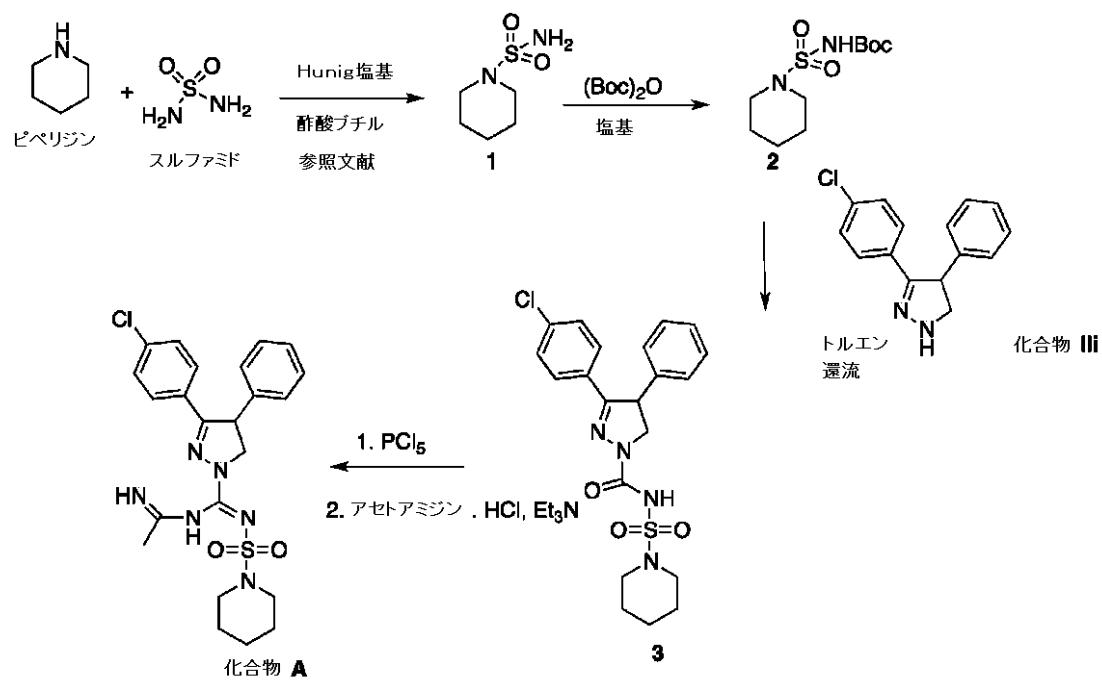
【0137】

クロロベンゼン 3 mL 中のスルホニルウレア化合物 3 (446 mg、1.00ミリモル) に PCl_5 を加え (合成スキーム 1)、この混合物を 1 時間、加熱した。次に、溶媒を蒸発させて、塩化イミドイル残留物をジクロロメタンに溶解し、メタノール : ジクロロメタン : Et_3N (2 : 1 : 1) 中にアセトアミジン塩酸塩 (3.06ミリモル) のプレミックスした混合物を、-78°で滴下処理し、一晩、室温まで加温した。この反応混合物をジクロロメタン中に抽出し、水で洗浄して、ヘキサン : EtOAc (6 : 4) を使用するフラッシュクロマトグラフィーによって精製すると、上記のアミジノ化合物 A が 30 ~ 40 % 収率で得られた。帰属データは、表 1 に示されている。

20

【化29】

合成スキーム1



30

または「 NH_2 」互変異性体

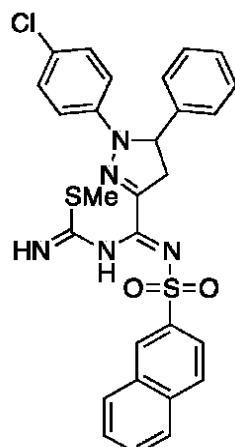
40

参照文献: *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 2009, 19, 5675-5678

【0138】

例示的実施例 2 :

【化 3 0】



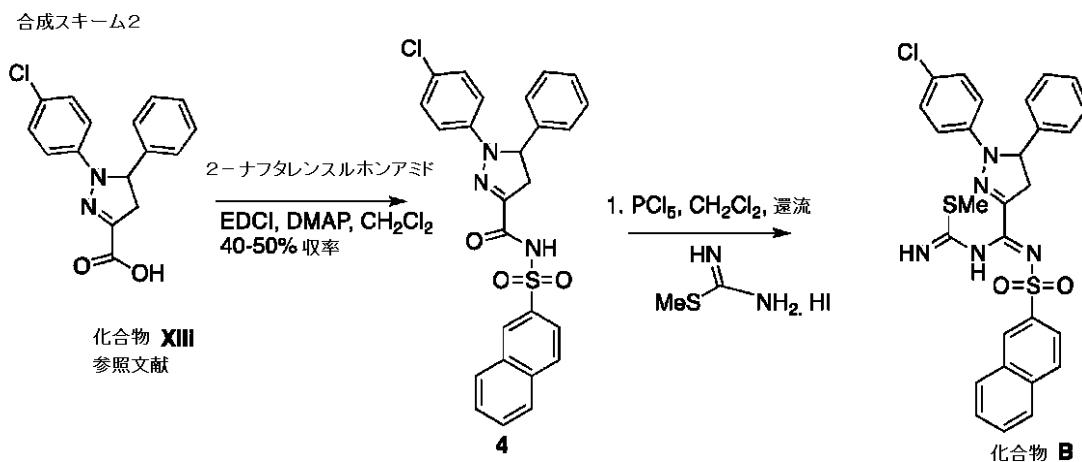
10

【0 1 3 9】

ジクロロメタン中の酸化合物 XIII (1.2 mg、4ミリモル)（合成スキーム2）に、EDCI (2当量)、DMAP (2当量) および2-ナフタレン (naphthalene) スルホンアミド (1.1当量) を加え、一晩攪拌した。次に、この混合物を1N HClで酸性にし、水およびジクロロメタンで抽出した。このジクロロメタン層を蒸発させて、粗製残留物をIPAにより粉末にすると、純粋なスルホニルウレア化合物4が、回収原料基準で、40～50%収率で得られた。次に、化合物4をジクロロメタンおよびPCl₅に溶解し、この混合物を24時間、加熱して還流した。塩化イミドイル残留物をさらなるジクロロメタンに溶解し、メタノール：ジクロロメタン：Et₃N (2:1:1) 中にメチルカルバムイミドチオエトヨウ化水素酸塩 (2ミリモル) のプレミックスした混合物を、-78で滴下処理し、一晩、室温まで加温した。この反応混合物をジクロロメタン中に抽出し、水で洗浄して、ヘキサン：EtOAC (6:4) を使用するフラッシュクロマトグラフィーによって精製すると、上記のアミジノ化合物Bが50～60%収率で得られた。帰属データは、表4に示されている。

20

【化 3 1】



30

40

または「NH₂」互変異性体

参照文献：1. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 2010, 120, 1752-1757.
2. *J. Med. Chem.* 2007, 50, 5951-5966.

【0 1 4 0】

本明細書において開示されている化合物は、標識リガンドとして、マウス脳細胞膜および³H - C P 5 5 5 4 0を使用する、放射リガンド置換アッセイにおいて、マウスのCB1受容体に対する高い親和性を有することができる。例えば、化合物M R I - 1 9 5 0は、1.2 nMのK_iCB1を有する。さらに、本明細書において開示されている化合物は

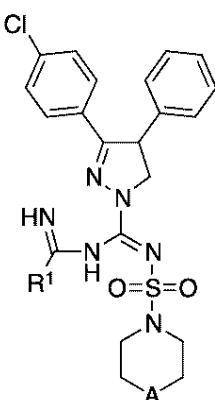
50

、親油性がそれほど高くないことがある。例えば、化合物M R I - 1 9 5 0は、それほど高い親油性にはならない、3.3のC Log P値を有しており、その結果、水溶解度が改善される。

【0141】

【表1-1】

表1



10

シリ アル 番号	R ¹	A	K _i CB1 (nM)	H-NMR (400 MHz, CDCl ₃):	質量 MH ⁺	CLogP/tPSA (理論値)
1	Me	CH ₂	3	δ 7.54 (d, J = 7.5 Hz, 2H), 7.33–7.29 (m, 3H), 7.23–7.21 (m, 2H), 7.15 (d, J = 6.5 Hz, 2H), 4.71–4.69 (m, 1H), 4.49– 4.43 (m, 1H), 4.04–4.00 (m, 1H), 3.12 (d, J = 0.7 Hz, 4H), 2.11 (s, 3H), 1.63 (t, J = 0.8 Hz, 5H), 1.46 (d, J = 0.7 Hz, 2H).	487.02	3.50/101.22
2	CH ₃ CONH	CH ₂	1.6	δ 7.65–7.63 (m, 2H), 7.31 (d, J = 7.0 Hz, 3H), 7.22–7.16 (m, 2H), 7.15 (d, J = 7.2 Hz, 2H), 4.62 (s, 2H), 3.93 (s, 1H), 3.11 (m, 4H), 1.94 (s, 3H), 1.69 (d, J = 2.8 Hz, 4H), 1.49 (s, 2H).	530.04	3.96/130.32

20

30

40

【表 1 - 2】

3	SMe	CH ₂	15	δ 7.58 (s, 2H), 7.35–7.31 (m, 2H), 7.29 (s, 1H), 7.21 (dd, J = 13.8, 7.2 Hz, 4H), 4.70–4.66 (m, 1H), 4.52–4.46 (m, 1H), 4.05–4.02 (m, 1H), 3.13 (m, 4H), 2.52 (s, 3H), 1.65 (m, 4H), 1.47 (s, 2H).	519.08	4.39/101.22	10
4	<i>t</i> -ブチル	CH ₂	23	δ 7.52 (s, 2H), 7.32 (d, J = 6.7 Hz, 3H), 7.23–7.21 (m, 2H), 7.17 (s, 2H), 4.94 (s, 1H), 4.69–4.67 (m, 1H), 4.50–4.44 (m, 1H), 4.01–3.98 (m, 1H), 3.13 (m, 4H), 1.63 (t, J = 1.0 Hz, 4H), 1.47 (s, 2H), 1.36 (s, 9H).	529.1	4.74/101.22	
5	4-F-フェニル	CH ₂		δ 7.85 (s, 2H), 7.47–7.46 (m, 2H), 7.21 (d, J = 5.0 Hz, 5H), 7.06 (t, J = 8.1 Hz, 2H), 6.60–6.59 (m, 2H), 6.30–6.28 (bs, 2H), 4.52–4.49 (m, 1H), 4.33–4.30 (m, 1H), 3.79 (s, 1H), 3.16 (s, 4H), 1.66 (s, 4H), 1.48 (s, 2H).	567	6.43/101/22	20
6	4-Cl-フェニル	CH ₂		δ 7.77 (d, J = 7.8 Hz, 2H), 7.46–7.44 (m, 2H), 7.35 (d, J = 7.9 Hz, 2H), 7.22 (d, J = 8.9 Hz, 5H), 6.59–6.58 (m, 2H), 6.25 (s, 2), 4.50 (dt, J = 9.3, 0.9 Hz, 1H), 4.31–4.29 (m, 1H), 3.79–3.75 (m, 1H), 3.15 (m, 4H), 1.66 (m, 4H), 1.48 (s, 2H).	583.5	7.00/101.22	30

【表1 - 3】

7	Me	CF ₂		δ 7.54 (d, J = 7.6 Hz, 2H), 7.31 (t, J = 7.3 Hz, 3H), 7.23 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 7.14 (d, J = 6.9 Hz, 2H), 5.39 (s, 1H), 4.72–4.70 (m, 1H), 4.43 (t, J = 12.1 Hz, 1H), 4.01–3.97 (m, 1H), 3.33 (m, 4H), 2.10 (d, J = 14.0 Hz, 7H).	523.00	2.89/101.22	10
8	CH ₃ CONH	CF ₂	1.2	δ 7.63–7.61 (m, 2H), 7.32 (d, J = 6.9 Hz, 2H), 7.31–7.28 (m, 1H), 7.22 (s, 2H), 7.16 (d, J = 7.0 Hz, 2H), 4.66–4.64 (m, 1H), 4.55–4.49 (m, 1H), 3.97 (t, J = 5.8 Hz, 1H), 3.33 (m, 4H), 2.05 (m, 7H).	566.02	3.34/130.32	
9	SMe	CF ₂	14	δ 7.58 (s, 2H), 7.33 (d, J = 7.1 Hz, 4H), 7.23–7.17 (m, 3H), 4.70 (dddd, J = 5.5, 4.1, 2.6, 1.4 Hz, 1H), 4.50–4.45 (m, 1H), 4.02 (ddd, J = 5.3, 2.6, 1.6 Hz, 1H), 3.35 (m, 4H), 2.52 (s, 3H), 2.10 (s, mH).	555.06	3.77/101.22	20
10	t-ブチル	CF ₂	21	δ 7.51 (s, 2H), 7.32 (q, J = 7.6 Hz, 3H), 7.19 (dd, J = 26.8, 7.1 Hz, 4H), 4.94 (s, 1H), 4.71–4.68 (m, 1H), 4.44 (t, J = 11.4 Hz, 1H), 3.99– 3.95 (m, 1H), 3.35 (m, 4H), 2.08 (s, mH), 1.37 (s, 9H).	565.08	41.2/101.22	30
11	4-F- フェニル	CF ₂		δ 7.85 (dd, J = 7.0, 5.2 Hz, 2H), 7.46 (td, J = 1.8, 1.1 Hz, 2H), 7.23 (m, 5H), 7.09 (t, J = 8.2 Hz, 2H), 6.60 (dt, J = 2.0, 1.3 Hz, 2H), 6.03–5.99 (m, 2H), 4.52 (td, J = 3.7, 2.6 Hz, 1H), 4.31–4.27 (m, 1H), 3.79– 3.76 (m, 1H), 3.37 (m, 4H), 2.10 (m, 4H).	603.06	5.82/101.22	40

【表 1 - 4】

12	4-Cl-フェニル	CF ₂		δ 7.77 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 7.46–7.44 (m, 2H), 7.38 (d, J = 8.2 Hz, 2H), 7.23 (d, J = 7.9 Hz, 5H), 6.57 (s, 2H), 6.11 (s, 2H), 4.53–4.50 (m, 1H), 4.28 (t, J = 6.6 Hz, 1H), 3.76–3.74 (m, 1H), 3.37 (d, J = 0.9 Hz, 4H), 2.10 (m, 4H).	619.5	6.57/101.22
13	Me	CH CF ₃	3	δ 7.54 (d, J = 7.6 Hz, 2H), 7.33–7.29 (m, 3H), 7.23 (d, J = 7.8 Hz, 2H), 7.14 (d, J = 7.1 Hz, 2H), 5.34 (s, 1H), 4.70–4.69 (m, 1H), 4.47–4.41 (m, 1H), 4.01–3.97 (m, 1H), 3.86 (m, 2H), 2.63–2.60 (m, 2H), 2.11 (s, 3H), 2.04 (s, 1H), 1.86 (m, 2H), 1.74–1.71 (m, 2H).	555.02	3.59/101.22
14	CH ₃ CONH	CH CF ₃		δ 7.62 (dt, J = 4.3, 2.1 Hz, 2H), 7.33–7.29 (m, 3H), 7.26–7.21 (m, 3H), 7.17–7.15 (m, 1H), 4.68–4.64 (m, 1H), 4.56–4.49 (m, 1H), 3.99–3.95 (m, 1H), 3.88–3.84 (m, 2H), 2.58–2.52 (m, 2H), 2.10 (d, J = 0.6 Hz, 4H), 1.92–1.84 (m, 2H), 1.77–1.70 (m, 2H).	598.04	4.05/130.32
15	SMe	CH CF ₃		δ 7.57 (s, 2H), 7.31 (t, J = 8.0 Hz, 3H), 7.23 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 7.18 (d, J = 6.1 Hz, 2H), 5.33 (s, 1H), 4.72–4.68 (m, 1H), 4.49–4.46 (m, 1H), 4.02–3.99 (m, 1H), 3.86–3.84 (m, 2H), 2.65–2.53 (m, 5H), 2.08–2.04 (m, 1H), 1.91–1.88 (m, 2H), 1.75–1.72 (m, 2H).	587.08	4.48/101.22

10

20

30

40

【表 1 - 5】

16	<i>t</i> -ブチル	CH CF ₃		δ 7.52 (s, 2H), 7.33–7.29 (m, 3H), 7.23 (d, J = 8.5 Hz, 2H), 7.15 (t, J = 0.7 Hz, 2H), 4.93 (s, 2H), 4.71–4.67 (m, 1H), 4.47–4.41 (m, 1H), 4.00–3.96 (m, 1H), 3.88–3.85 (m, 2H), 2.64–2.59 (m, 2H), 2.04 (s, 1H), 1.90–1.86 (m, 2H), 1.75–1.71 (m, 2H), 1.37 (s, 9H).	597.10	4.83/101.22	10
17	Me	O		δ 7.54 (d, J = 7.7 Hz, 2H), 7.35–7.29 (m, 3H), 7.15 (d, J = 6.7 Hz, 4H), 5.28 (s, 1H), 4.77–4.69 (m, 1H), 4.49–4.38 (m, 1H), 4.03–3.99 (m, 1H), 3.75 (m, 4H), 3.16–3.11 (m, 4H), 2.11 (s, 3H).	488.99	3.21/110.45	20
18	SMe	O		δ 7.59 (s, 2H), 7.32 (d, J = 6.9 Hz, 3H), 7.24–7.18 (m, 4H), 4.71–4.69 (m, 1H), 4.52–4.47 (m, 1H), 4.06–4.00 (m, 1H), 3.77 (m, 4H), 3.17 (m, 4H), 2.52 (s, 3H).	521.06	3.83/110.45	
19*	4-F-フェニル	CH CF ₃		δ 7.82 (dd, J = 8.7, 5.3 Hz, 2H), 7.46–7.44 (m, 2H), 7.25–7.19 (m, 5H), 7.04 (t, J = 8.6 Hz, 2H), 6.57 (s, 2H), 6.43 (s, 2H), 4.51–4.48 (m, 1H), 4.30–4.25 (m, 1H), 3.87 (t, J = 10.3 Hz, 2H), 3.79–3.75 (m, 1H), 2.69–2.59 (m, 2H), 2.07 (d, J = 16.0 Hz, 1H), 1.90 (d, J = 13.0 Hz, 2H), 1.78–1.70 (m, 2H).	636.08	6.5/101.2	30

40

【表 1 - 6】

20	4-Cl-フェニル	CH CF ₃		δ 7.77 (d, J = 8.4 Hz, 2H), 7.46–7.45 (m, 2H), 7.37 (d, J = 8.4 Hz, 2H), 7.22 (t, J = 6.1 Hz, 5H), 6.63 (s, 2H), 5.97 (s, 2H), 4.55–4.51 (m, 1H), 4.33–4.27 (m, 1H), 3.92–3.86 (m, 2H), 3.79–3.75 (m, 1H), 2.69–2.59 (m, 2H), 2.08–2.05 (m, 1H), 1.89 (d, J = 8.1 Hz, 2H), 1.79–1.71 (m, 2H).	651.53	7.2/101.22	10
21	4-F-フェニル	O		δ 7.85 (dd, J = 8.3, 5.4 Hz, 2H), 7.50 (d, J = 25.1 Hz, 2H), 7.22–7.20 (m, 5H), 7.07 (t, J = 8.4 Hz, 2H), 6.63 (s, 2H), 6.09–6.06 (m, 2H), 4.54–4.51 (m, 1H), 4.36–4.30 (m, 1H), 3.84–3.82 (m, 5H), 3.19 (s, 4H).	569.05	5.62/110.4	20
22	4-Cl-フェニル	O		δ 7.75 (t, J = 8.8 Hz, 2H), 7.45–7.37 (m, 2H), 7.37–7.32 (m, 2H), 7.23 (t, J = 9.7 Hz, 5H), 6.58 (s, 2H), 6.20 (s, 2H), 4.52–4.50 (m, 1H), 4.32–4.28 (m, 1H), 3.76 (s, 5H), 3.18 (s, 4H).	585.5	6.19/110.4	30
23	CH ₃ CONH	O		δ 7.63 (d, J = 8.3 Hz, 2H), 7.31 (q, J = 7.9 Hz, 2H), 7.22 (d, J = 8.6 Hz, 2H), 7.22 (d, J = 8.6 Hz, 3H), 4.66 (dd, J = 11.5, 5.8 Hz, 1H), 4.52 (t, J = 11.8 Hz, 1H), 4.00 (dd, J = 12.0, 5.9 Hz, 1H), 3.76 (d, J = 3.4 Hz, 4H), 3.18 (d, J = 3.2 Hz, 4H), 2.09 (s, 3H).	532.02	3.53/139.5	40

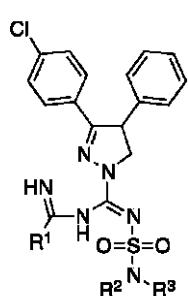
【表 1 - 7】

24	<i>t</i> -ブチル	O		δ 7.53 (s, 2H), 7.32 (t, J = 7.2 Hz, 2H), 7.27 (d, J = 7.2 Hz, 1H), 7.22 (d, J = 8.6 Hz, 2H), 7.16 (d, J = 7.2 Hz, 2H), 4.68 (dd, J = 11.5, 5.5 Hz, 1H), 4.46 (t, J = 11.9 Hz, 1H), 4.00 (dd, J = 12.1, 5.5 Hz, 1H), 3.75 (s, 4H), 3.17 (s, 4H), 1.35 (s, 9H).	531.07	4.4/110.4
25	SMe	CH Ph		δ 7.59–7.58 (m, 2H), 7.30 (dd, J = 17.9, 7.4 Hz, 3H), 7.21 (dd, J = 14.7, 8.1 Hz, 4H), 4.70 (dd, J = 11.5, 5.4 Hz, 1H), 4.51 (t, J = 11.8 Hz, 1H), 4.05 (dd, J = 12.1, 5.2 Hz, 1H), 3.92–3.87 (m, 2H), 2.76–2.67 (m, 2H), 2.53 (s, 3H), 1.88 (d, J = 3.4 Hz, 3H).	595.1	5.8/101.2
26	Me	CH Ph			563.11	4.9/101.22

【 0 1 4 2 】

【表 2 - 1】

表 2



10

20

30

40

【表 2 - 2】

シリアル 番号	R ¹	R ²	R ³	K _i CB ₁ (nM)	H-NMR	質量	CLogP/tPSA (理論値)
1	Me	Et	Et		δ 7.53 (d, <i>J</i> = 8.5 Hz, 2H), 7.30 (q, <i>J</i> = 7.5 Hz, 3H), 7.21 (d, <i>J</i> = 8.6 Hz, 2H), 7.13 (d, <i>J</i> = 7.0 Hz, 2H), 5.34 (s, 1H), 4.67 (dd, <i>J</i> = 11.6, 5.3 Hz, 1H), 4.42 (t, <i>J</i> = 12.0 Hz, 1H), 3.99 (dd, <i>J</i> = 12.3, 5.3 Hz, 1H), 3.25 (q, <i>J</i> = 7.3 Hz, 4H), 2.10 (s, 3H), 1.18 (dt, <i>J</i> = 13.9, 6.8 Hz, 7H)	475.16	2.67/101.22
2	SMe	Et	Et		δ 7.57 (s, 2H), 7.32-7.31 (m, 3H), 7.22 (d, <i>J</i> = 8.2 Hz, 2H), 7.18 (d, <i>J</i> = 5.8 Hz, 2H), 4.69-4.65 (m, 1H), 4.49-4.43 (m, 1H), 4.04-3.99 (m, 1H), 3.26 (d, <i>J</i> = 6.7 Hz, 4H), 2.52 (s, 3H), 1.19 (m, 6H).	508.08	3.74/101.22
3	t-ブチル	Et	Et		δ 7.51 (d, <i>J</i> = 8.3 Hz, 2H), 7.29 (t, <i>J</i> = 8.3 Hz, 3H), 7.21 (d, <i>J</i> = 8.6 Hz, 2H), 7.15 (d, <i>J</i> = 7.2 Hz, 2H), 4.65 (dd, <i>J</i> = 11.6, 5.6 Hz, 1H), 4.42 (t, <i>J</i> = 11.9 Hz, 1H), 3.97 (dd, <i>J</i> = 12.2, 5.6 Hz, 1H), 3.25 (q, <i>J</i> = 7.1 Hz, 4H), 1.36 (s, 9H), 1.17 (t, <i>J</i> = 7.1 Hz, 6H).	517.09	3.91/101.22
4	CH ₃ CONH	Et	Et		δ 8.50 (s, 1H), 7.61 (d, <i>J</i> = 8.3 Hz, 2H), 7.30-7.25 (m, 3H), 7.21 (d, <i>J</i> = 8.6 Hz, 2H), 7.16 (d, <i>J</i> = 7.1 Hz, 2H), 4.63 (dd, <i>J</i> = 11.0, 5.4 Hz, 1H), 4.52- 4.46 (m, 1H), 4.01-3.97 (m, 1H), 3.24 (q, <i>J</i> = 7.1 Hz, 4H),	518.03	3.31/130.3

10

20

30

40

【表 2 - 3】

					2.09 (s, 3H), 1.19 (t, $J=7.2$ Hz, 6H).		
5	4-F-フェニル	Et	Et		δ 7.89 (dd, $J=8.6, 5.3$ Hz, 2H), 7.49-7.47 (m, 2H), 7.22-7.19 (m, 5H), 7.10 (t, $J=8.6$ Hz, 2H), 6.78 (s, 2H), 5.6 (bs, 1H), 4.56-4.52 (m, 1H), 4.37-4.30 (m, 1H), 3.89-3.86 (m, 1H), 3.28 (q, $J=7.1$ Hz, 4H), 1.19 (t, $J=7.1$ Hz, 6H).	555.07	5.7/101.22
6	4-Cl-フェニル	Et	Et		δ 7.79 (d, $J=8.3$ Hz, 2H), 7.47-7.45 (m, 2H), 7.35 (d, $J=8.3$ Hz, 2H), 7.21 (t, $J=7.0$ Hz, 5H), 6.68 (s, 2H), 6.00 (s, 2H), 4.53-4.49 (m, 1H), 4.33-4.27 (m, 1H), 3.82-3.77 (m, 1H), 3.28 (q, $J=7.1$ Hz, 4H), 1.19 (dd, $J=8.8, 6.0$ Hz, 6H).	571.5	6.35/101.22
7	<i>t</i> -ブチル	<i>i</i> -Pr	<i>i</i> -Pr			545.1	4.5/101.22

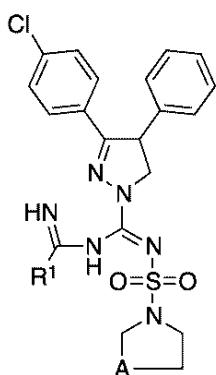
10

20

【0 1 4 3】

【表3 - 1】

表3



シリアル番号	R ¹	A	K _i CB ₁ (nM)	H-NMR	質量	CLogP/tPSA (理論値)
1	Me	CH ₂		δ 7.52 (s, 2H), 7.33–7.26 (m, 3H), 7.22 (d, J = 8.6 Hz, 2H), 7.15 (s, 2H), 5.21 (s, 2H), 4.68 (ddd, J = 11.5, 5.3, 0.3 Hz, 1H), 4.46–4.40 (m, 1H), 4.01–3.97 (m, 1H), 3.33–3.30 (m, 4H), 2.11 (s, 3H), 1.85–1.82 (m, 4H).	473	2.94/101.22
2	SMe	CH ₂		δ 7.57 (s, 2H), 7.32 (dd, J = 6.7, 0.8 Hz, 3H), 7.23 (d, J = 8.2 Hz, 2H), 7.23 (d, J = 8.2 Hz, 2H), 4.68 (d, J = 9.6 Hz, 1H), 4.49–4.43 (m, 1H), 4.01 (d, J = 16.1 Hz, 1H), 3.34 (m, 4H), 2.53 (s, 3H), 1.86 (m, 4H).	505.06	3.83/101.22
3	4-F-フェニル	CH ₂		¹ H-NMR (400 MHz, CDCl ₃): δ 7.88 (dd, J = 8.3, 5.4 Hz, 2H), 7.47 (d, J = 7.4 Hz, 2H), 7.21 (d, J = 8.5 Hz, 5H), 7.08 (t, J = 8.4 Hz, 2H), 6.70 (s, 2H), 5.94 (s, 2H), 4.54–4.50 (m, 1H), 4.35–4.28 (m, 1H), 3.84– 3.80 (m, 1H), 3.35 (d, J = 5.7 Hz, 4H), 1.86 (s, 4H).	553.05	5.87/101.22

10

20

30

40

【表3-2】

4	4-Cl-フェニル	CH ₂	H-NMR (400 MHz, CDCl ₃): δ 7.79 (d, <i>J</i> = 8.4 Hz, 2H), 7.50–7.41 (m, 2H), 7.35 (d, <i>J</i> = 8.4 Hz, 2H), 7.21 (t, <i>J</i> = 6.5 Hz, 5H), 6.64 (s, 2H), 6.13 (s, 2H), 4.52–4.49 (m, 1H), 4.34–4.26 (m, 1H), 3.81–3.75 (m, 1H), 3.35 (d, <i>J</i> = 6.8 Hz, 4H), 1.86 (s, 4H).	569.51	6.4/101.2
5	CH ₃ CONH	CH ₂		516.02	3.4/130.3
6	<i>t</i> -ブチル	CH ₂	δ 7.52–7.50 (m, 2H), 7.31 (q, <i>J</i> = 7.8 Hz, 4H), 7.21 (d, <i>J</i> = 8.5 Hz, 2H), 7.15 (d, <i>J</i> = 7.3 Hz, 2H), 4.66 (dd, <i>J</i> = 11.7, 5.6 Hz, 1H), 4.43 (t, <i>J</i> = 12.0 Hz, 1H), 3.98 (dd, <i>J</i> = 12.2, 5.6 Hz, 1H), 3.32 (t, <i>J</i> = 6.3 Hz, 4H), 1.84 (t, <i>J</i> = 6.3 Hz, 4H), 1.36 (s, 9H).	515.07	4.18/101.2

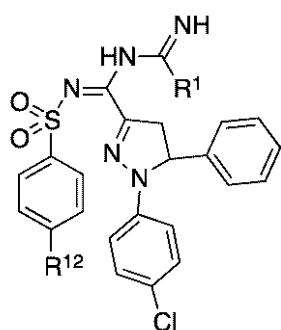
10

20

【0 1 4 4】

【表4】

表4



シリアル番号	R ¹	R ¹²	K _i CB ₁ (nM)	H-NMR	質量	CLogP/tPSA (理論値)
1	4-Cl-フェニル	縮合 Ph-			626.5	9.8/97.9
2	SMe	縮合 Ph		8.51 (s, 1H), 7.94–7.87 (m, 3H), 7.58 (t, J = 8.4 Hz, 2H), 7.28 (t, J = 5.2 Hz, 6H), 7.12–7.07 (m, 3H), 6.92 (d, J = 8.9 Hz, 2H), 5.70 (s, 2H), 5.37 (dd, J = 13.1, 6.6 Hz, 1H), 3.75 (dd, J = 17.9, 13.1 Hz, 1H), 3.12–3.06 (m, 1H), 2.21 (s, 3H).	562	7.7/97.9
3	4-F-フェニル	縮合 Ph-			610.1	9.3/97.9
4	Me	縮合 Ph			528.02	6.17/97.9
5	t-ブチル	縮合 Ph			570.1	7.4/97.9
6	CH ₃ CONH	縮合 Ph			571.05	5.74/127.08
7	SMe	CF ₃			580.04	7.43/97.9
8	t-ブチル	CF ₃			590.06	7.7/97.9
9	SMe	Cl			546.5	7.2/97.9

【0145】

いくつかの実施形態は、以下の条項番号で、以下に記載されている。

【0146】

1. 以下の構造：

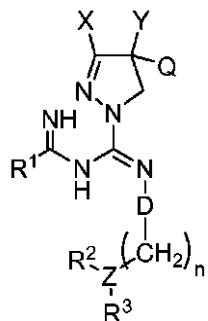
10

20

30

40

【化32】



式 I

(式中、XおよびYは、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞれ独立して選択され、

Qは、H、ヒドロキシリ、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

R¹、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリ、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニル、アラルキル、必要に応じて置換されているチオールからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、または必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環を形成し、

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

Dは、-S(O)₂-または-C(O)-であり、

nは0~5である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステル。

【0147】

2. R²とR³がZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も形成しない、条項1に記載の化合物。

【0148】

3. R²およびR³が、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキルである、条項2に記載の化合物。

【0149】

4. R²およびR³がそれぞれ同一であり、それぞれ低級アルキルであり、ZがNである、条項3に記載の化合物。

【0150】

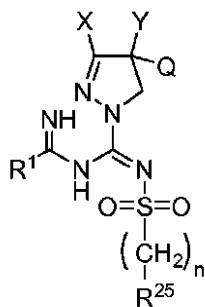
5. 以下の構造：

20

30

40

【化33】



式 Ia

10

(式中、R^{2~5}は、必要に応じて置換されているN-複素環である)
を有する、条項1に記載の化合物。

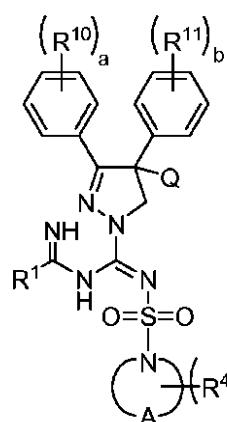
【0151】

6. XおよびYがそれぞれ、必要に応じて置換されているアリールである、条項1から5のいずれか一項に記載の化合物。

【0152】

7. 以下の構造：

【化34】



式 Ib

20

(式中、R⁴、R^{1~0}およびR^{1~1}はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

Aは、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、一置換C-ヘテロアルキルもしくは二置換C-ヘテロアルキル、一置換C-アルキルもしくは二置換C-アルキル、一置換C-アリールもしくは二置換C-アリール、一置換C-シクロアルキルもしくは二置換C-シクロアルキル、-CH(COO R^{2~0})-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-または-N(O)-であり、R^{2~0}は、Hまたはアルキルであり、

aおよびbはそれぞれ、0~5であり、

cは0~7である)

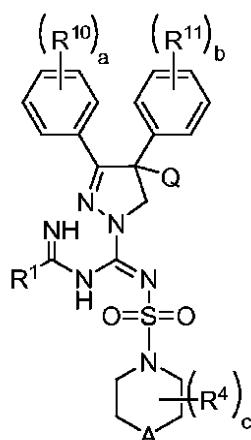
を有する、条項5に記載の化合物。

【0153】

8. 以下の構造：

50

【化35】



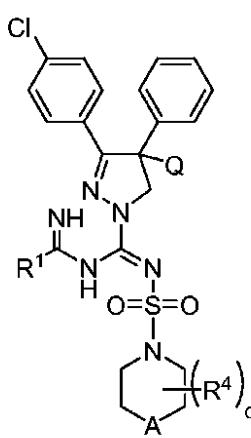
式 Ic.

を有する、条項7に記載の化合物。

【0154】

9. 以下の構造：

【化36】



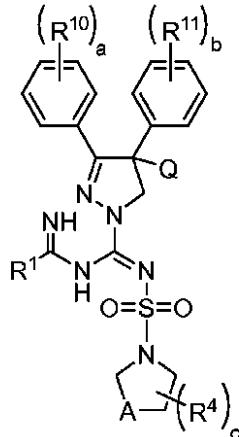
式 Id.

を有する、条項8に記載の化合物。

【0155】

10. 以下の構造：

【化37】



式 Ie.

10

20

30

40

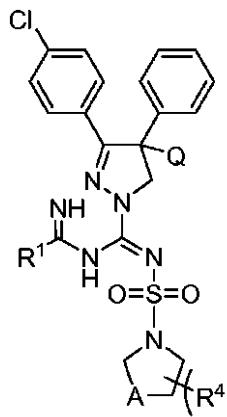
50

を有する、条項 7 に記載の化合物。

【0156】

11. 以下の構造：

【化38】



10

式 If.

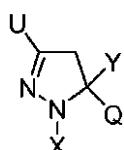
を有する、条項 10 に記載の化合物。

【0157】

20

12. 以下の構造：

【化39】



式 II

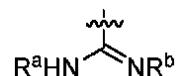
(式中、X および Y は、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているシクロアルキル、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル、または必要に応じて置換されているアルキルからそれぞれ独立して選択され、

30

Q は、H、ヒドロキシリル、または必要に応じて置換されているアルコキシであり、

U は、

【化40】



(式中、R^a は -C(=NH)R¹ であり、R¹ は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシリル、アシリル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルであり、R^b は、置換スルホニルまたは置換カルボニルである)

40

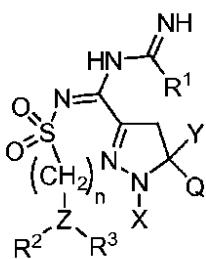
である)

を有する、化合物、またはその薬学的に許容される塩もしくはエステル。

【0158】

50

13. 以下の構造：
【化41】



式 IIa

10

(式中、R²およびR³は、H、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、必要に応じて置換されているホスフィニルからそれぞれ独立して選択されるか、またはR²とR³はZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環、必要に応じて置換されているアリール環、または必要に応じて置換されているヘテロアリール環を形成し、

Zは、B、N、-CH-またはPであり、

nは0～5である)

を有する、条項12に記載の化合物。

【0159】

14. R²とR³がZと一緒にになって、必要に応じて置換されているシクロアルキル環も、必要に応じて置換されているヘテロシクロアルキル環も、必要に応じて置換されているアリール環も、必要に応じて置換されているヘテロアリール環も形成しない、条項13に記載の化合物。

【0160】

30

15. R²およびR³が、それぞれ独立して、必要に応じて置換されているアルキル(特に、低級アルキル)である、条項13に記載の化合物。

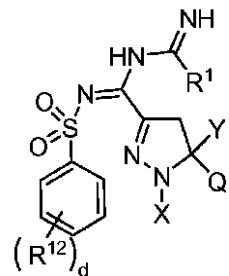
【0161】

16. R²およびR³がそれぞれ同一であり、それぞれ低級アルキルであり、ZがNである、条項15に記載の化合物。

【0162】

17. 以下の構造：

【化42】



式 IIb

40

(式中、R¹～R²はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているヘテロアルキル、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシもしくは

50

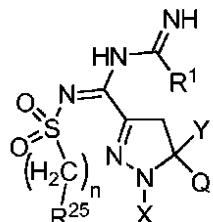
必要に応じて置換されているアルキルアミノ、必要に応じて置換されているアリール、ハロゲン、シアノ、ニトロ、アシルまたはカルボニルから独立して選択され、
d は 0 ~ 5 である)

を有する、条項 1 3 に記載の化合物。

【0163】

18. 以下の構造：

【化43】



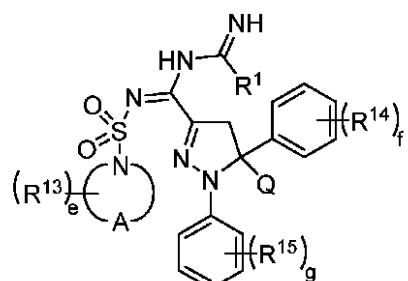
式 IIc

(式中、R^{2~5} は、必要に応じて置換されているN - 複素環である)
を有する、条項 1 3 に記載の化合物。

【0164】

19. 以下の構造：

【化44】



式 IIId

(式中、R^{1~3}、R^{1~4} および R^{1~5} はそれぞれ、必要に応じて置換されているアルキル、必要に応じて置換されているシクロアルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、ヒドロキシ、必要に応じて置換されているアルコキシ、アミノ、必要に応じて置換されているスルホニル、必要に応じて置換されているアリール、必要に応じて置換されているヘテロアリール、必要に応じて置換されているカルボキシル、アシル、必要に応じて置換されているアルケニル、必要に応じて置換されているアルキニル、必要に応じて置換されているホスホニル、または必要に応じて置換されているホスフィニルから独立して選択され、

A は、-CH₂-、-O-、-CH(CF₃)-、-CF₂-、-CCl₂-、-N(アルキル)-、-N(アリール)-、一置換C-ヘテロアルキルもしくは二置換C-ヘテロアルキル、一置換C-アルキルもしくは二置換C-アルキル、一置換C-アリールもしくは二置換C-アリール、一置換C-シクロアルキルもしくは二置換C-シクロアルキル、-CH(COO R^{2~0})-、-CH(CN)-、-S-、-S(O)-、-S(O₂)-または-N(O)-であり、R^{2~0} は、H またはアルキルであり、

f および g はそれぞれ、0 ~ 5 であり、

g は 0 ~ 7 である)

を有する、条項 1 8 に記載の化合物。

【0165】

20. 以下の構造：

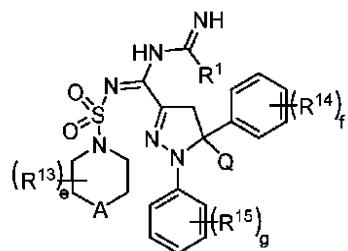
10

20

30

40

【化45】



式 IIe

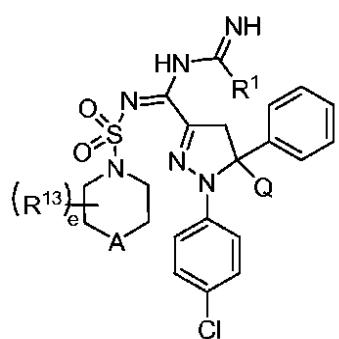
10

を有する、条項19に記載の化合物。

【0166】

21. 以下の構造：

【化46】



式 IIIf.

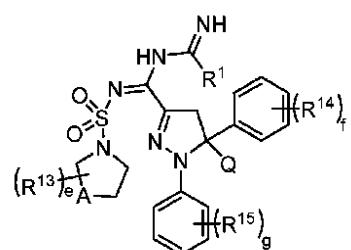
20

を有する、条項20に記載の化合物。

【0167】

22. 以下の構造：

【化47】



式 IIg.

30

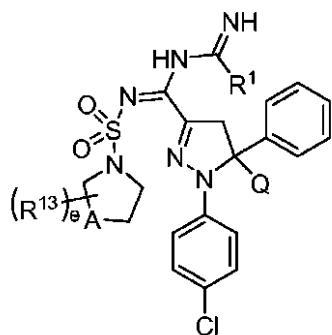
を有する、条項19に記載の化合物。

【0168】

23. 以下の構造：

40

【化48】



10

式 IIIh.

を有する、条項22に記載の化合物。

【0169】

24. R¹が、必要に応じて置換されているアルキル（例えば、低級アルキル、チオール置換低級アルキル）、アミノカルボニル（例えば、アセトアミド）または必要に応じて置換されているフェニル（例えば、ハロゲン置換フェニル）である、条項1から23のいずれか一項に記載の化合物。

【0170】

25. QがHである、条項1から24のいずれか一項に記載の化合物。

20

【0171】

26. Aが、-CH₂-、-CF₂-、-O-または-CH(CF₃)-である、条項1から25のいずれか一項に記載の化合物。

【0172】

27. 条項1から26のいずれか一項に記載の化合物および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物を含む、医薬組成物。

【0173】

28. 治療量の条項1から26のいずれか一項に記載の化合物、および少なくとも1つの薬学的に許容される添加物からなる単位剤形を含む、医薬組成物。

【0174】

30

29. 被験体において、肥満、糖尿病、非アルコール性脂肪肝疾患およびアルコール性脂肪肝疾患、肥満の共存症、動脈硬化性心疾患の素因になる脂質異常症、糖尿病性腎症、または痛風を処置する方法であって、それを必要とする被験体に、治療有効量の条項1から26のいずれか一項に記載の化合物を投与するステップを含む、方法。

【0175】

30. 被験体において、肥満を処置するステップを含む、条項29に記載の方法。

【0176】

31. 被験体において、糖尿病を処置するステップを含む、条項29に記載の方法。

【0177】

32. 被験体において、脂肪組織の沈着を予防するかまたは元に戻す方法であって、それを必要とする被験体に、有効量の条項1から26のいずれか一項に記載の化合物を投与するステップを含む、方法。

40

【0178】

33. 化合物を投与しても、実質的に、神経精神医学的な有害作用を引き起こさない、条項29から32のいずれか一項に記載の方法。

【0179】

34. 化合物の投与により、脳内最高濃度と血漿中最高濃度との比が0.1未満となる、条項29から34のいずれか一項に記載の方法。

【0180】

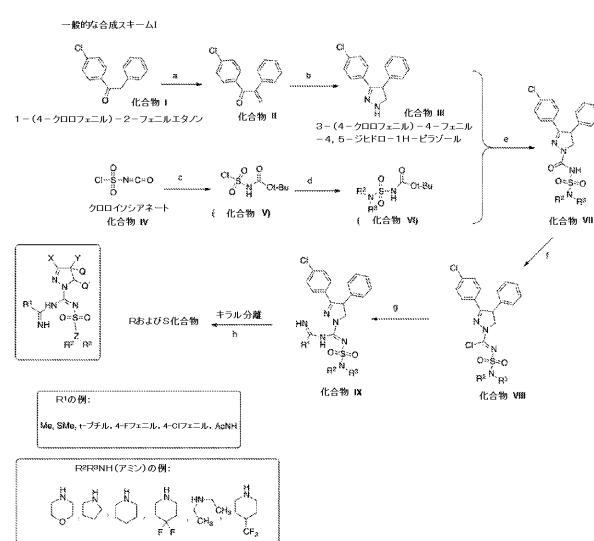
本開示化合物、組成物および方法の原理を適用することができる、多くの可能な実施形

50

態に鑑みると、例示的な実施形態は、本発明の好ましい例に過ぎないことを認識すべきであり、本発明の範囲を限定するものと見なすべきではない。

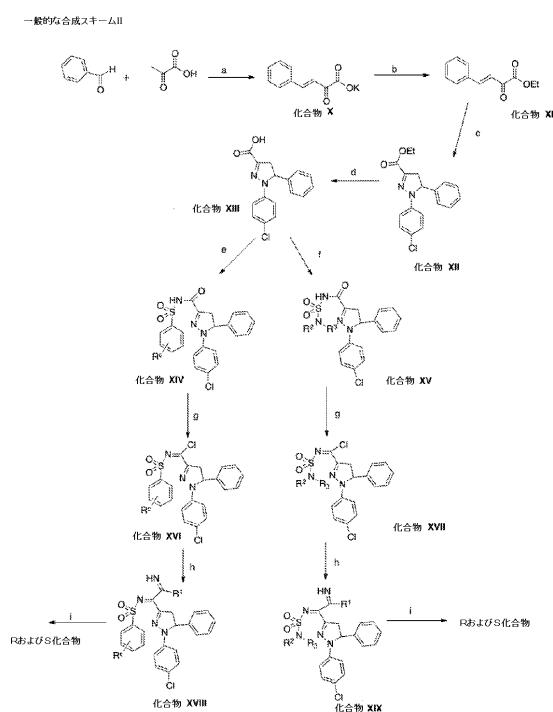
【図1】

FIG. 1



【図2】

FIG. 2



フロントページの続き

(51)Int.Cl.	F I
A 6 1 K 31/4155 (2006.01)	A 6 1 K 31/4155
A 6 1 P 17/00 (2006.01)	C 0 7 D 231/06 C
A 6 1 P 17/04 (2006.01)	A 6 1 P 17/00
A 6 1 P 17/06 (2006.01)	A 6 1 P 17/04
A 6 1 P 29/00 (2006.01)	A 6 1 P 17/06
A 6 1 P 37/08 (2006.01)	A 6 1 P 29/00
	A 6 1 P 37/08

(74)代理人 100181674

弁理士 飯田 貴敏

(74)代理人 100181641

弁理士 石川 大輔

(74)代理人 230113332

弁護士 山本 健策

(72)発明者 クノス， ジョージ

アメリカ合衆国 メリーランド 20817, ベセスダ, メアリーウッド ロード 6606

(72)発明者 アイアー， マリガ

アメリカ合衆国 メリーランド 20874, ジャーマンタウン, フォーリング スター ロード 18856

(72)発明者 シナー， レサット

アメリカ合衆国 メリーランド 20814, ベセスダ, ウエイマウス ストリート 10650, アパートメント 101

(72)発明者 ライス， ケナー シー.

アメリカ合衆国 メリーランド 20817, ベセスダ, カークデール ロード 9007

審査官 伊佐地 公美

(56)参考文献 特表2004-500401(JP, A)

特表2005-503428(JP, A)

特表2005-503427(JP, A)

特表2007-519686(JP, A)

特表2009-536221(JP, A)

特表2011-502999(JP, A)

国際公開第2011/044370(WO, A1)

特表2014-505665(JP, A)

特表2008-545739(JP, A)

特表2010-513395(JP, A)

MUCCIOLI G G; LAMBERT D M, LATEST ADVANCES IN CANNABINOID RECEPTOR ANTAGONISTS AND INVERSE AGONISTS, EXPERT OPINION ON THERAPEUTIC PATENTS, 英国, INFORMA HEALTHCARE, 2006年10月 4日, VOL:16, NR:10, PAGE(S):1405 - 1423, U R L, <http://dx.doi.org/10.1517/13543776.16.10.1405>

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

C 0 7 D

A 6 1 K

A 6 1 P

C A p l u s / R E G I S T R Y (S T N)